

## 『人の形と魔の形（後編）』情報まとめ



### 概要

GS第19話 第二作戦「人の形と妖魔の形（後半）」

依頼人：灰色のジェイス

推奨レベル：5-7(三次職、転生職はレベル3でも参加可)

報酬：一人50000セレン（参加報酬）

舞台：ゴブリン帝国首都「マルス」

必須なスキル、装備：ファイター、レンジャー、シーフ、ソーサラー、プリースト、スチームパンカ、アルケミスト、生贄、その他不明。要情報収集。

概要：

ゴブリン帝国の首都マルスで、王城が丸ごと異界に飲み込まれるという事件が起こった。

城の中のゴブリンが次々と変異し、場内はとんでもないことになっているようだ。

すでにゴブリン帝国の中でも名うての探索者が数々犠牲になっている。

帝国城には、現在王弟マゼンダも閉じ込められているらしい。

鎖国をこれまで続けていたゴブリン帝国だが、城を中心にマルスの異界化が進行している今、そうも言っていられなくなったようだ。

外部から異界探索を生業とする者を集めるとお触れがあった。

俺は先に異界に潜るつもりだが、さすがに今回ばかりは危ういかもしれん。

だからホオヅキの探索組も参加しないか？

どちらにせよ魔鉱石が手に入らないと話にならない。

ゴブリン帝国に恩を売るチャンスなんじゃあ、ないかね？

達成目標：首都マルス王城の解放

努力目標：王弟マゼンダの救出

○特記事項

1. 異界探索になる為、通常の常識が通用しない場合がある。
2. 物理法則などもおかしくなっている場合がある。気を付ける事。
3. これは通常のダンジョンハック……ではない。
4. 慎重に行動せよ。

## 注意点

エリザベートの手記の情報は全員知っているものとして良い。

**基本的に分散行動は不可。** 偵察や留守番に人を出すのは有り。

ゴブリン紙幣の残りは備考欄で管理を行うこと。

途中参戦は10/30（金）のセッションまでで締切となる。

## インターミッションと嵐の航海

深海の蒼光 10/26 21:32~22:43

マレーンからホオヅキに戻ってきた一行は、ホオヅキ首脳陣への報告を済ませ、**ディルが合流して冒険者8人とテレサとクリムゾンアイの合計10人の体勢になった。**キサラギとかガチの点検やマレーンとの政治調整で出発が少し遅れた。

**リアナよりお土産を持ち帰ってくるように熱い要請があった。**

カガチにはEGGを8機まで搭載可能だが、キサラギにはVAPを搭載できるがEGGは搭載できない。

ゴブリン帝国にEGGを持ち込んでも異界攻略には役に立たそうだと判断し、キサラギでマルスへと出発することとなった。

マルスに向かったキサラギは嵐で足止めを喰らい二日の遅れを出した。激しく船が揺れたが誰もリバースしなかった。

さらに火事が発生し、船倉の食糧が燃えてしまった。女海賊Aが何とか消火したがキサラギに大きなダメージが残った。

マルスに到着することはできたものの、**船の修理のためキサラギは一週間動けなくなってしまった。**

マルスが大騒ぎになってしまうのを防ぐため、クリムゾンアイには変装を施して上陸した。

## HOTEL

深海の蒼光 10/26 22:43~23:28

テレサがマルスの街並みが普通なこと感嘆した。**暗黒大陸で見たゴブリンの街とは全く違う**ようだ。

港から見える範囲では街に異常はないようだ。まずはホワイトとユラと合流するためにホテルに向かった。

ホテルの執事は変装させたクリムゾンアイの正体をひと目で見破り、前回とは違って宿泊手続きまでホテル側で処理した。

ホワイトとユラは奥の食堂にいるようなので執事に案内してもらおうと、だらけきった食事をしている二人がいた。

食堂にはゴブリンたちがたくさんいるので、内密の話をするために客室へと移動することになった。  
移動した先の客室は一泊5000セレンは取られそうな最上階のスイートルーム。その名もロイヤル・ワン。ルームサービスで用意してもらった食事も豪華なものばかり。懐の心配をしていると執事から皇帝陛下が泊まるので無料とのこと。しかも事実上無期限に泊まれることとなった。  
異界攻略に掛かる前にクリムゾンアイに今回の事態の説明をお願いすると、クリムゾンアイは執事を下がらせた。ゴブリンが聞くと都合が悪い話のようだ――

妖魔の宿命	深海の蒼光 10/26 23:30~10/27 22:11
-------	-------------------------------

――そして、クリムゾンアイが話を始めた。

### クリムゾンアイの話

クリムゾンアイがただのゴブリンだった頃、彼はアルマーヤに渡ろうとした。マゼンダもついてこようとしたがあまりに過酷な旅になるので引き返した。

クリムゾンアイは海峡を渡ろうとしたが、アルマーヤではなくひとつの岩島に流れ着いた。岩島には骨竜帝モトがいた。

ここで回想に入る。

モト『ゴブリン風情が、分不相応な望みを抱いて何故海峡を渡るのか』

クリムゾンアイ『不相応な夢を見るのは問題かね？ ゴブリンとて他の種族と変わらんよ』

モト『馬鹿な小鬼だ。自分がどういう存在であるのか、お前は全く分かっていない。……お前の「夢」はなにか言ってみろ』

クリムゾンアイ『全てのゴブリンを救うことだ』

モト『お前達ゴブリン、いや、オーガ、オーク、コボルトといった妖魔は、夢を持てるようには作られていないのだ』

全てのゴブリンを救うという夢を叶えるためにアルマーヤの神秘を求めたクリムゾンアイに対し、面白そうに楽しそうにモトは妖魔に課せられた宿命を明かした。

### モトの話

ゴブリンなど妖魔に属する存在は、人間の物語の中で下賤な欲を満たし、人間に殺される為だけに生み出された想像の産物。人間が下衆な物語を楽しみ、その下衆な欲望を代わりに果たすためだけに世界によって生み出された。

妖魔は暴食し、怠惰に怠け、下賤で、野卑で、女を見れば犯すことしか考えず、残酷で裏切れることをなんとも思わず、奪い、喰らい、犯し、貪る。そういう「欲」を持つことしか許されていない。

下衆な欲の器でしかない妖魔が、不相応で綺麗な「夢」を描くときに異変が起こる。欲の器であり、徹頭徹尾欲に満たされた存在である妖魔が、異物である「夢」を詰め込んだ時に、器の中の欲は溢れる。どこかで亀裂が入り、欲があふれ出し、そして妖魔は何かもわからない化け物（寄生虫）に変貌する。

妖魔という器の中に渦巻いているのは欲を具現化するための一種のデバイスフレクター。欲を実現するために用いるべき願望の液体。それが不相応な夢と反応すると、よく分からない化け物（寄生虫）を形成する。

（フィオレのように）演劇で身を立てたいと夢を持つゴブリンの夢が限界まで膨れ上がった時、「何か踊って劇をするような異形」が現れる。ひどいと辺りの空間を捻じ曲げて、演劇場（異界）に変えてしまう。（ゴブンザのように）歌で身を立てようとする者の夢が限界まで膨らんだ時、「何かよく分からない歌をただただ歌い続けるだけの化け物」が出来上がる。

モトの話聞いた時はまだクリムゾンアイにはその意味がよく分からなかった。

モト『アルマーヤの神秘をお前にくれてやろう。自分の立場を理解して、せいぜい夢とやらを叶えるが良い』

ここで回想が終わる。

モトによりヒトや竜をも凌駕する叡智であるアルマーヤの神秘を授けられたクリムゾンアイはゴブリンという種族の矮小さとモトの言葉の意味を正確に理解した。妖魔には以下のような軛が存在することとなる。

ゴブリンは夢への渴望が強くなりすぎると、中身があふれて夢に支配される化け物になり、程度がひどいと異界を発生させる。夢への渴望が最も強くなるのは夢破れた時。

これを防ぐためにクリムゾンアイは、ゴブリンたちに人生に疑問を持たず何も考えずに目の前の仕事に取り組むよう教育した。ゴブリンたちに本人の希望に拠らない仕事を与えて、持ち場を離れず、与えられた役目を果たすことが理性的なゴブリンの生きる道だと教育した。そして、夢への渴望が膨らみすぎないように、自己研鑽を重ねることを怠らないようにさせた。

この規範を守っていないと、叶わない夢を抱くようになり、夢破れて絶望して化け物に変化する。そうなればゴブリンは滅びる。だから歪な統治社会になることが分かっていたゴブリン帝国を大きくした。

妖魔に課せられた軛を知った時点でクリムゾンアイは夢を放棄し、やりたいこともなくなってしまった。

しかし、マゼンダはそこまで理解することができず、夢を追うことを放棄できなかった。ゴブリンにも自由に生きる権利があると言うマゼンダはある意味正しいが、それは妖魔に課せられた軛を理解できていないから。

いま、妖魔はケダモノとして生きることしか許されていない。善良に幸せに生きることは世界に許されていない。そのことを他のゴブリンたちに知らせることはできない。

モトはその絶望でクリムゾンアイが苦しむのを愉しむために叡智を与えた。

異界の探索が行われているが、それに終わりはない。（ガチ勢が解決してくれるということはない、と思われる）

## 異界を取り除くには

異界を取り除くためにはデバイスフレクターを無力化して異界の元になったゴブリンを殺せばいい。

具体的には異界の中樞で消魔石（魔鉱石）を一つ砕いて空気に触れていなかった断面を露出させることで力を発動させれば、異界の中心になったゴブリンを一時的に取り出せる。その時に殺せばいい。

そうして、異界を一つ一つ処理していけば、やがて王城の異界の中心にいると思われる皇弟マゼンダのところにたどり着ける。

彼を殺せば、他は異界ではなく散発的な寄生虫だけになるはず。

テレサ『……神は奇跡を起こされますが、それは物事を解決する為ではなく、私達に信じる力を与えるためです。神はむしろ、私達が進み歩んできた道にこそ働かれます。あなた方が真に目の前の何かに手を差し伸べたいと願うならば、その時には既に必要なものは整えられています。それが信仰というものです。その納得のいかない何かに立ち向かい、その壁を打ち砕く存在を、世界は英雄と呼びます』

消魔石（魔鉱石）はマルスの三番街の倉庫に置かれている。  
クリムゾンアイよりどれだけ使ってもいいと許可が出た。  
クリムゾンアイの言葉では皇弟マゼンダ救出は絶望的だが…？  
テレサもデバイスリフレクターによって歪んだ存在になったモノは生命ではない。生も死もないから生き返らせることはできないと言う。  
ホワイト自身であってもアンチ・マナの力は使えない。  
アンチ・マナはユリーカにしかできないとのこと。



魔鉱石がマナを吸っている間は、周囲の魔力で動いているモノは全て停止することになる。ホムンクルスや天使はひどい脱力を感じるが、魔法生物が消えるほど強い効果ではない。（魔法によって働いているバフ効果、呪い、デバフ効果、マジックアイテムの能力等が全て消え、天使、ホムンクルスは最大HPとTPが3まで減少。通常通りに行動でき、魔鉱石の効果がなくなると元の値に戻る。効果範囲は半径30m。持続時間は5分。その範囲内では全ての魔術が使用不能。外部から魔術を打ち込んでも消失する。VAPも活動できない）

続いてホワイトとユラから、一行がマルスから離れていた間の情報収集の結果を聞くが、回り続けるコマのような寄生虫や、這い回る赤ん坊のような寄生虫が出たという話以外には特に新情報はなかった。（実際には魔鉱石の置いてある場所を調べ上げていたが、先にクリムゾンアイから同じ情報が出たので無駄に終わった）

ホテルのロイヤルスイートに宿泊しただけではクリムゾンアイが帰還したという噂はマルスに広がらなさそうなので、引き続きクリムゾンアイが帰還したことはゴブリンたちには伏せて行動することになった。

クリムゾンアイにマレーンを攻めた理由を聞くと、領土拡大という目標に取り組んでいるうちは不必要に夢に執着することもなく、ヴォルケイノが国を荒らしたということが決め手になったものの、時間稼ぎの意味も込めて敢えて遠いマレーンを攻めることになったようだ。とにかく平和になると余計なことを考える（寄生虫被害が増える）と、クリムゾンアイは思っている。（逆に言えば寄生虫騒ぎを根本解決しない限り、また何処かを侵略する必要に迫られるということでもある）

魔鉱石回収に先立って、倉庫の見張りを誤魔化す算段をしようとしたが、クリムゾンアイによると魔鉱石の置いてある倉庫には見張りはいないという。魔鉱石は（クリムゾンアイの頭の中では）軍事利用を考えているが専ら寄生虫対策に使われている。一般のゴブリンからは使い道の分からないレアメタルとして死蔵されているらしい。

## 魔鉱石回収

深海の蒼光 10/27 22:15～23:59

一行はクリムゾンアイから教えられた倉庫に移動した。周囲は人気もない郊外。倉庫は無骨かつ大型で扉は錆びついている。鎖がぐるぐる巻きになって錠前が付いていたが、鍵を外して鎖を破壊。扉は非常に重そうな横開き。ディルが20cmほどの隙間を開けたところで、大きな音が響いてしまった。

ゴブリンの兵士が近づいてきたので、魔法剣の姿になったアハトとフォルトゥナが開いた隙間から侵入、他のメンバーは一旦その場から逃亡して、倉庫内のことを天使二人に任せることとなった。ゴブリン兵士によって扉は閉められ、針金でぐるぐる巻きにされてしまった。

暗闇に取り残された天使二人はランタンの明かりを頼りに倉庫内を探した。倉庫内にはたくさんの木箱が置いてあった。二人は木箱を開けていき、ミスリルとヒヒイロカネの原石をスルーしてついに魔鉱石の入ったボロい木箱にたどり着いた。バックバックに魔鉱石を重さ40だけ詰め込んで奥の排気用ダクトから脱出した二人はホテルに帰還して、一行と合流した。汚れた服はクリーニングに出して二人は入浴した。

## 人選

深海の蒼光 10/28 0:00～22:52

異界への挑戦のための下準備は整った。現在NPCを除いて一行は8人。異界にチャレンジする際にはNPCは四人のうち二人しか連れていくことができない。一度異界から帰還した時にメンバーチェンジは可能。PCを減らしてNPCを入れるのは不可。

クリムゾンアイ	知識関係、ゴブリン帝国関連の知識、戦闘要員、ガチ勢の暗号解読
テレサ	全奇跡使用可能、蘇生奇跡持ち、助言、非戦闘要員
ホワイト	全魔術系スキル、魔法知識関連、戦闘要員
ユラ	シーフ系スキル最上位、マジックアイテム知識最上位、遺跡関係、古代遺物知識、戦闘要員

ホテルに戻ってくれば水と食糧は無料で補給可能。(甘いものも補給できる)各自食事を摂ってその夜は睡眠をとった。翌朝、魔鉱石を各々手分けして所持することとなった。(ハンズ3個 セフィ2個 ディル7個 コレット5個 アロンザ4個 アリーヤ1個、ミズキ1個、ルクレシア6個、クリムゾンアイ1個、テレサ1個 部屋置き9個) 魔鉱石を分配してから王城に向けて出発した。

異界への入り口	深海の蒼光 10/28 22:53~23:54
---------	-------------------------

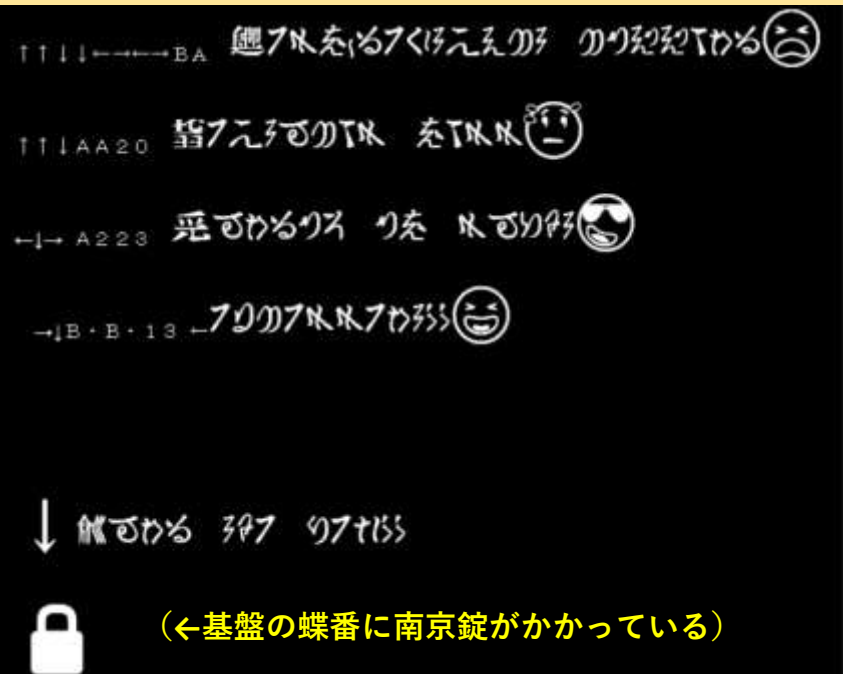
ホテルから一時間かけて王城に到着。異界の景色は歪んで見えるが、王城自体の外観は普通に見える。進入するにあたって隊列を組んだ。前衛【アロンザ、ディル、ハンズ】中衛【アリーヤ・セフィ・ルクレシア・クリムゾンアイ・テレサ】後衛【ミズキ・コレット】王城の中は気味の悪い粘ついた空気。王城の門は開きっぱなしで人影は一切ない。扉の奥はエントランスでエントランスの奥にホテルと同じようなエレベータ(転移ポータル)が五台ほど並んでいる。真ん中のエレベータは動くようだがそれ以外のエレベータは電源が入っていない。エレベータの階層表示はこうになっている。左から1234567890のようだ。クリムゾンアイによると文字そのものがおかしくなっているとのこと。

ニニ上上土土土土王フニフニフニフニフニフニフ

ガチ勢のメモ帳にはエントランスに戻れば補給可能と書いてあったが、これはエントランスに来れば外に出られるから水や食糧を買いに行けるという意味だったようだ。ここで、エレベータを呼び出すことになった。

エレベータの謎	深海の蒼光 10/28 23:54~10/29 22:36
---------	-------------------------------

エレベータを呼び中に入ると、中には様々な文字が書き殴られ、不思議な操作盤がある。操作盤には十字レバーとAとBのキーと1~0の数字キーがある。クリムゾンアイの協力により落書きを読んでもらうこととなった。



↑↑↑↑→→→BA 罇ヲ水をいりくほええのり のりだだてわる(☹️)

↑↑↑AA20 罇ヲえろむのて水 をて水水(☹️)

→→ A223 罇をわるりす りを 水をりり(☹️)

→↓B・B・13 罇のり水水水(☺️)

↓ 罇をわる 罇ヲ りりり

🔒 (←基盤の蝶番に南京錠がかかっている)

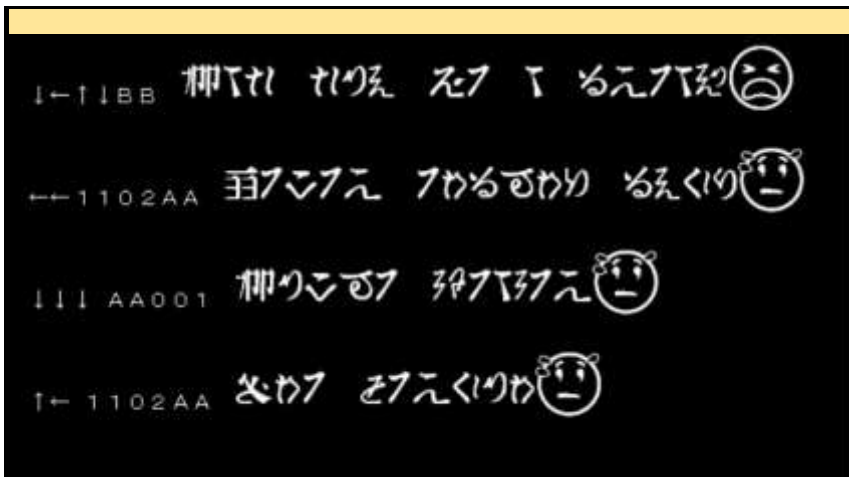
自爆コマンド

垂直落下

光の窓

←エクセレント!!  
(エントランスに戻るコマンド)

↓誰か鍵を探してくれ!  
(ピッキングや魔法は拒絶される)



夢ならよかったのに

終わらない夕暮れ

映画館

お一人様

クリムゾンアイによると、表情マークは行き先の難易度を表現しているらしい。😊 や 😊 はあまり危険ではない。

😞 は下手をするとロストの危険がある。😞 は即死でロストの危険がある。

書いてある文字は、各行き先のタイトル表示のようだ。タイトルを付けることによって情報共有をしやすくなりどういう部屋なのかを覚えやすくなる効果があるらしい。ここに記されていないコマンドを打ち込むことは可能だが、どのような結果になるのかわからない。

エレベータはデザインやレイアウトはクリムゾンアイの記憶しているエレベータと同じだったが、何十年も放置されたように汚い。南京錠はクリムゾンアイの記憶しているエレベータには無かったものだった。エントランスのコマンドが書いてある部分と、鍵を探してくれと書いてある部分の間に空いた空間には特に何も書かれていなかった。

異界はそれを発生させた寄生虫被害者の心象と関係があるものになる可能性が高い。その異界の本質を見出せば異界の中心が何処にあるのかが分かるはず。割った魔鉱石をその中心に押し込めば、異界の中身（被害者ゴブリン）を取り出せる。クリムゾンアイは中身をすぐに殺すことを推奨した。テラサはそれに何か言いたげだったが明言を避けた。

## 光の窓

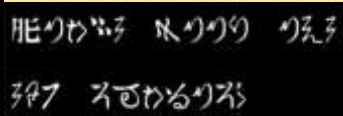
深海の蒼光 10/29 22:36~10/31 0:23

エレベータに光の窓のコマンドを入力して移動した。

明るい城のような回廊がある。左側に窓が並んでいて綺麗な光が射し込んでいる。光は眩しくて窓の外を覗き込まないと、窓の向こう側の景色は見えない。廊下は薄暗く冷たい石造り。正面しばらく進むと右への曲がり角がある。

曲がり角の先からかすかに『かち、かち、かち』という音が聞こえる。

廊下に出てみると、エレベータからは死角になっていた場所に落書きがあった。



窓から外を見るな！

窓から射している光は不自然なものではなかった。

ハンスとディルが先行して曲がり角を曲がって扉を見つけた。

ハンスが扉に罫がないかを調べていると、

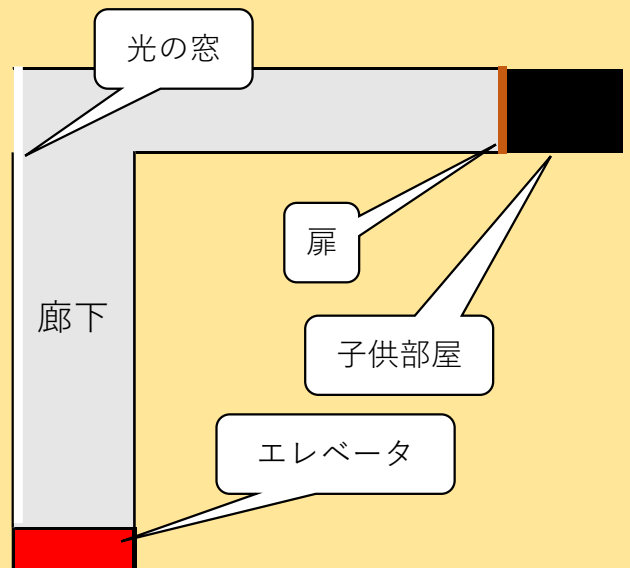
後ろからアハトの声で『ちょっと、こっち』と聞こえる。

アハトは腰に差しているはず。ハンスは警戒して振り向かなかった。

ディルからはハンスの後ろには誰も見えない。

扉の向こう側からは『こと、こと、コツ』と積み木を積むような音が聞こえる。

残りのメンバーはここで先行したハンスとディルに合流。



合流するために移動している途中で、コレットも『お姉ちゃん』と、声がかかった。声はすぐ脇から聞こえた。しかし、他の誰もその声を聞いていない。声に聞き覚えもない。警戒したコレットも声をスルーした。扉は押し戸になっている。扉を開くと6m×6mほどの窓も照明器具もない子供部屋があった。子供部屋には木馬、積み木、ガラガラが落ちていて、積み木はひとりでに積み上がっては崩れている。絵本などは落ちていない。積み木の脇に紙切れが落ちていて【↓↓↓AA001】（映画館のコマンド）とだけ書いてあった。ガチ勢的には窓の外を見さえしなければ安全であり面白い現象が無かったので、ここで探索は打ち切ったようだ。ディルがガラガラを鳴らしてみたら特に何も起こらなかった。ここで、テレサなりの解釈が出てきた。

## テレサの言葉

窓の外にはなにもない。景色がない。

子供部屋には目で楽しむ玩具がない。

異界が誰かの叶わなかった夢の具現化であるなら、夢の本質は「叶わなかった部分」にあるのではないか？

部屋の中を明かりで照らすとカルテが落ちていた。ダッチー語という未知の言語だったがクリムゾンアイが訳した。

カルテには生まれつき盲目の少女が7歳で眼球移植手術に失敗した記録が記載されていた。身体移植は発展途上の分野であり人体実験も同然だったようだ。

少女は窓の外の景色を楽しみにしていたが、眼球移植手術の失敗により視覚を得ることが不可能になった。両親は窓の外の景色の素晴らしさを娘に教えていたようで、それがさらに絶望を深くしたのだらうとクリムゾンアイは推測した。

テレサは魔鉱石を使って少女を引き出した時にどうしたいのかと一行に問う。一行は概ね助けたい方向。

積み木の方を見ると、馬を作ろうとしているが首の部分が上手くいかずに延々とやり直しを繰り返しているようだった。

盲目だから首のバランスのととり方がわからないようだ。ディルとセフィ（とハンスとルクレス）が手伝うことで木馬を完成させると、木馬が光り始めてきた。手伝った者はその時にクリムゾンアイの推測を裏付けるような母子（？）の会話を聞いた。

クリムゾンアイはこれ以上苦しめないように（少女を）殺してやるのが良いのではないかと言うが、セフィ、アロンザ、ミズキ、ディルがそれに反論してあくまで少女を助ける意思を示した。

セフィは組み上がった木馬を光の射す窓の方に移動させようとするが、その時に窓を見てしまったルクレスは失った家族の幻を窓の向こうに見て窓の方へ引き寄せられていく。すかさずルクレスを取り押さえようとした一行は窓の方にドロドロした赤い世界と無数のグロテスクな手が伸びているを見た。窓から出ると恐ろしいことになるのは確かなようだ。ルクレスは心にダメージを負いながらも窓に引き込まれずに済んだ。三人以上が取り押さえに成功しないと犠牲者が窓に引き込まれてしまうのが光の窓に潜む最大のリスクだったようだ。テレサがルクレスの心を癒やすことでその場は収まった。

木馬に窓から射す光を当てると木馬が強く輝いた。外の世界の光を当てれば良いかと思い、一行はエレベータに向かって歩き始めるが、窓の光が遠くなると木馬の輝きが弱くなっていく。外の世界に持っていくことはできないらしい。テレサは輝いた木馬こそがこの異界の中核なのだろうと言った。

木馬を注意して窓枠に置き、割った魔鉱石を近づけると、魔鉱石は木馬へと吸い込まれ、空間が割れた。割れた空間の向こう側の赤いドロドロの中から目の化け物が出現した。クリムゾンアイは目の化け物を倒せと言うが、セフィたちは諦めなかった。

眼玉『ああああああ……木馬、もく、ば、つくったああああ、でも何も見えない、みえないのおお、どお`じてええええ そとはきれいなものがみえるんでじよ、でもみえないの、なんでみえないの、なんで？そんなのしらない、ほかのことなんてじらない、みえない、みえないみえない……みえない つらいの…つらいつらいつらい、みえない、みえない、あああああああ あゝ！！！！』

テレサは、これはもう生命ではないが、セフィの言葉に少しだけ反応を示したと言う。それはセフィが目玉の気持ちに寄り添ったときだった。セフィが目玉の気持ちを理解していることを言葉にすると目玉が割れて小さな手が出てきた。



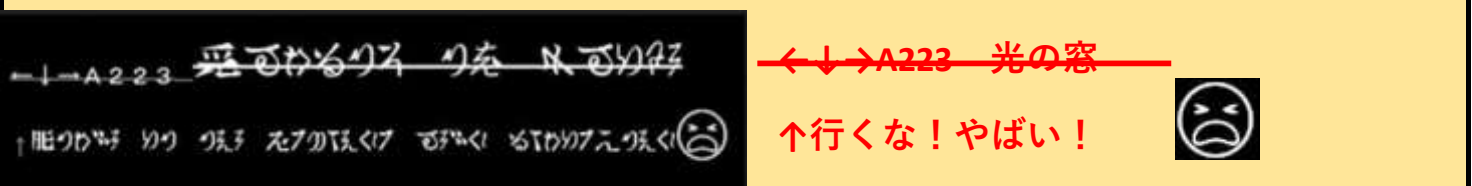
セフィが出てきた手を引っ張ると、赤く汚れて目に包帯が巻かれているが無事そうなゴブリンの少女が中から出てきた。少女が救出されたところで窓の外から実体のない黒い影が少女と一行に迫ってくる。すかさず一行は少女を連れてエレベータまで撤退した。クリムゾンアイは一連の流れに驚いていたようだ。エレベータの扉を閉じて影をシャットアウトすると一行はエントランスを経由して少女を安全に保護するために一旦ホテルに撤退した。

**リサの光** 深海の蒼光 11/2 21:25~23:03

光の窓からゴブリン少女を救出した一行はホテルの部屋に戻った。  
 ゴブリン少女は生命に別状ない状態。死んで赤い部屋に取り込まれたわけではないので、ホワイトやユラの場合とは状況が違うようだ。ホワイトにゴブリン少女のことをお願いしていると、少女が目を覚ました。少女の名前はリサ。自分の部屋にいたところまでしか記憶がないようだ。空気も匂いも自分の部屋とは違うらしい。リサはずっと積み木を積み続ける夢を見ていた。しかし、夢の中で（彼女の気持ちを）解っているとってもらえたことが嬉しかったという。セフィの声も覚えていた。両親の謝罪は悲しく、医者希望を捨ててはいけないという言葉は信じられず、きっと大丈夫という友達の言葉も嫌だった。だから友だちができたら同じこと（解っている）を言ってあげたいとリサは言った。リサはもう見えなくても頑張れるようだ。ファミリアやドローンなどリサの目を治す方法を提案してみたが、ホワイトはテレサがリサの目を治さないならもうリサに光は必要ないだろうと議論を打ち切った。ルクレシアはリサに歌を教える。  
 光の窓の異界が消えた時に追いかけてきた黒い影については、テレサもクリムゾンアイもユラも不ワイトも分からないと言う。しかし、掴まったら二度と帰れない類のものだとクリムゾンアイとユラは言った。  
 映画館はどのようなものか考えてみた一行。魔法で録画した映像を映すもので、セレンでは商業化されているが、まだ演劇の方がメジャー。（映画館についた時に分かるが、ゴブリン帝国にも映画館はあった）  
 映画館に誰を連れて行くかを話し合った一行は、クリムゾンアイとユラを連れて行くことに決めて、6時間休息してから王城の異界に向かった。

**エレベータの変化（映画館挑戦直前）** 深海の蒼光 11/2 23:03~23:27

エレベータを呼んで乗り込んだ。エレベータの状態が前回来たときよりも綺麗になっていた。落書きをチェックすると、光の窓についての記述が変化していた。



エレベータの落書きは一体誰が書いているのか？謎は残る。エレベータに映画館に行くコマンドを入力し映画館に移動した。

**映画館** 深海の蒼光 11/2 23:27~11/5 0:22

扉が開くと映画館のエントランスがあった。人数分のパネルがあってデジタルサイネージのように映画のタイトルが表示されている。嫌でも目に入る大きさで、それを読まざるを得ない。奥の方にはシアターへの入り口があり、割と広い受付には飲み物（冷えたコカ・コーラ）と塩味バターポップコーンがたくさん置いてある。自由に飲食して良いということらしい。映画のタイトルは見る人によって違っている。ゴブリン帝国にも映画館はあるらしい。

映画のタイトル		
ユラ	一作目	トレジャーハンター、エルフと少女の大冒険！古代帝国の秘宝！
セフィ	一作目	麗しき魔法剣士一人旅、グルメと探求の最果てを目指す365日

ディル	一作目	うどん帝国の逆襲！ 牛はうどんを守り切れるか！？
アリーヤ	一作目	メタルギアフェルパード～ガンスリンガーフェルパーセレン帝国潜入編
アロンザ	一作目	輝く海の秘宝～人魚姫と出会う深海の宝石箱
コレット	一作目	麗しきエルフ主人とホムンクルスの事件簿～事件解決は美脚の脚組によって
ミズキ	一作目	狐美少女物語～麗しき美少女勇者の愛と剣の英雄譚
ルクレシア	一作目	猫姫アイドル主演！猫姫悲恋物語～運命の赤い糸
	二作目	絶望の猫姫～悲しみを乗り越えて、海に投げかける希望の歌
クリムゾンアイ	一作目	(タイトルは語らなかつたが自分の大河ドラマらしい)
ハンス	一作目	二本目の剣～秘密になるほど燃え上がる恋

シアターの入口近くに注意書きがあった。

肥りわはる そでらのあ いくわはる

一人で見ろな！！

ナンバーのついた映写室はいくつもあるようだ。右奥の映写室はナンバーがついておらず閉まっている。中の音を聴いてみると映画を上映しているようだがよく聞こえない。どの映画を見るかで迷ったが、まずは『歌姫悲恋物語～運命の赤い糸』を鑑賞することになった。他に客はいないようだ。

### 歌姫悲恋物語～運命の赤い糸

主人公の可愛いフェルパーの歌姫が、スターロードを駆け上る物語。しかし、その猫姫を陰で支える少年と猫姫の甘酸っぱい恋の物語でもある。最後に猫姫の最後の舞台を成功させるために、迫りくる戦争の足音から少年が命を挺して舞台の三十分を守り抜く。舞台が成功し、伝説を成し遂げたスターの少女。その少女が成功を報告したかった少年は二度と帰ってくることはなかった。

ユラ とってもよかったけど、最後は嘘でもハッピーエンドのほうが私は好きだなー

クリムゾンアイ 最後まで献身に徹するその姿。まさにゴブリンの美学。素晴らしい作品だ。

映画の内容自体は普通だった。全員の感想はバラバラで、観終わったら『さあ、家に帰ろうか』という気になった。上映中だった映写室はまだ上映中のように、扉は開いていない。扉はまるで溶接されたように固定されていて開くことができない。扉を無理に開けるのは危険だからもう少し映画館の中を調べようとユラが提案。エントランスの表示ではルクレシアの映画のタイトルが『絶望の猫姫～悲しみを乗り越えて、海に投げかける希望の歌』に変わっていた。続編のようだ。エントランスを色々探しているとカウンターからポロポロになった映画のチケットが出てきた。

### 映画のチケット

タイトル	ノルマの休日
状態	裏に日付(ゴブリンの暦で約一年前の日付で、映画の公開予定日だった)と劇場名が書いてある。焦げたせいでぼろぼろになっているようだ。未使用。一枚のみ。
内容	365日全力で働き詰めの一国の皇女様が、臣下から「仕事として休んでください」とノルマとして休日を与えられ、想像を絶する圧倒的な休日という難敵と戦うために必死でスケジュールを立てる物語。蓋を開けてみたら(休日が)以外に楽しくて、そこで素敵なお男子と出会う、楽しく休日というものを過ごす。「休日を取ることがこんなに素晴らしいなんて、私はしらなかった」という、 <b>社畜体質のゴブリンへ、休日を奨励する行き過ぎた勤労主義へのアンチテーゼ的な作品。</b> 実際に鑑賞したユラによると『休日！？なにそれ、私はまず休日用の服から買いに行かなければならないわ、でもその服を買いに行く休日がないじゃない！？』と皇女様がマジ切れしたシーンが面白かったらしい。『ノルマ』とはノルマ(課題)として与えられた休日と、主人公の名前『ノルマ皇女』にもかかっている。ノルマに追われたノルマ皇女の休日という意味もあるらしい。

上映されている映画に『ノルマの休日』もあった。隅っこの方の壊れたサイネージに『ノルマの休日』はかろうじて浮かんでいた。おどろおどろしい感じがする。ノルマの休日の公開日（チケットに書かれていた日）前日に港近く（三番街のアパート群で一人暮らしの労働者階級が多く住んでいた）で寄生虫騒ぎが原因で大火災が発生した。犠牲者も多かったという。上映中の部屋が『ノルマの休日』を映写していることはほぼ間違いないようだ。

### 映画館で検索可能な箇所

受付	カウンター	サイネージ	エントランス	トイレ	映写室（映画を鑑賞すれば検索可能）
----	-------	-------	--------	-----	-------------------

女子トイレを検索してみると、高級そうで綺麗な指輪の入った小箱が出てきた。クリムゾンアイによるとゴブリン帝国にも結婚指輪の風習はあるらしい。ポロポロになったチケットと指輪を近づけてみるとほんのりと光った。女子トイレには他には特に何もなさそうだ。

次に男子トイレを検索し、古びた手帳を発見したので、クリムゾンアイの協力で中身を読んでみた。一人で永遠にこの映画館に座って居たい、二人で楽しく家に帰るとい夢はもう永遠に叶わない……ということなのだろうか？

### 男子トイレの手帳の内容

休むことを知らない恋人にプロポーズしようと考えた男が、恋人の女に休みを取ってデートをしないかと促した。映画に出かけるために一日準備に使い、二日目に映画に行く予定だったが、その休んだ日に火災が起こって恋人が死んだ。翌日に男は入った映画館で一日中座っていた。男は指輪とチケットと、彼女に贈るはずだったネックレスを映画館で失くしてしまい、ずっと探していた。なお、男女の名前は書かれていなかった。

ユラが、日付は1年前なのに異界が発生したタイミングが合わないことを指摘した。

次いで、受付を検索すると、丁寧に袋の中に入れられた手編みのマフラーが見つかった。袋の中には『一緒に頑張りましょう。大切なあなたへ』と書かれたカードも入っていた。

カウンターには特に何も見つからなかった。エントランスは埃ひとつ落ちていないという綺麗さだった。

サイネージを調べようとしたところ、強烈に悪い予感を感じた。具体的には予感の中身はわからない。サイネージの調査は後に回すこととした。

敢えて一人で映画を観たらどうなるかが気になったが、ユラは無謀だと言った。

次にアロンザの映画を観ることになった。

### 輝く海の秘宝～人魚姫と出会う深海の宝石箱

ドキュメンタリー映画で、深海の中の美しい光の映像。人魚に生まれたならば、一度は泳いでみたい絶景の海の映像作品。特にバリアリーフと呼ばれるサンゴ礁の世界が大パノラマで撮影された感動を覚える綺麗さの世界。撮影班は伝説のバリアリーフ、グランドバリアリーフを目指して探求を続けるが、途中で人魚の姫に出会い、海底の神々しくも美しい緑色の光に包まれたグリーントネル、紫水晶の光が乱反射する紫の洞窟、さらには光の加減ですべてが真っ青に見える青の鍾乳洞を抜け、そして最後は七色の光輝くグランドバリアリーフへ到達する。そこがどこであるかは明かせないが、貴方もきっといつかこのグランドバリアリーフへ到達されることを願います。スタッフより愛をこめて！という内容で映画が終わる。

ユラ	トレジャーハンターたるもの、一度は到達したいなあ、続き気になる
----	---------------------------------

クリムゾンアイ	まあ、綺麗と言えば綺麗だが、利用価値のない景色にそこまで価値をもとめるという概念がよくわからんな
---------	--

映写室を検索すると、ネックレスが発見された。

ルクレシアがスクリーンに触れると腕がスクリーンにはまり込み、腕を掴まれて引っ張り込まれそうになる。ルクレシアは踏ん張ったが、上半身全部がスクリーンにめり込み壁尻状態になった。ディルがルクレシアを引っ張り出すと、上半身が赤い液体に汚れたルクレシアが出てきた。スクリーンの奥は真っ赤な空間でぼんやりした人影の無数の腕に『ツカマエタ、ツカマエタ。ツカマエタ』と、引っ張られるのを見た。

赤い液体は光の窓を開放した時に出現した異界にこびりついた赤いものと同じように見える。赤い液体はお土産用に瓶に集めておいた。

これまでに映画館で集めたネックレスなどキーアイテムを上映中の映写室に近づけると強く光るようになった。  
 ここで、そろそろ連続活動時間が気になってきた一行。時間感覚が怪しくなっている。ユラもクリムゾンアイも異界の中で眠るのは危険だという意見だった。そこで、一旦ホテルに撤収することとした。  
 帰り際にエレベータの注意書きにスクリーンに触らないようにクリムゾンアイに頼んで書き加えてもらった。  
 エレベータの注意書きは他には増えていなかった。

肥りわらう 397 くのえ77わ ぶわ 397 397737え33

**映写室のスクリーンに触るな！！**

回収済キーアイテム	映画のチケット、指輪、手帳、ネックレス、マフラー
-----------	--------------------------

<b>選手交代</b>	深海の蒼光 11/5 22:15~23:00
-------------	------------------------

ホテルに戻ってきた一行はホワイトとテレサに報告。時刻を確かめたら、体感時間よりも21時間も進んでいた。  
 睡魔で疲労困憊していた一行は6時間の睡眠をとった。朝になるとテレサとリサが朝のお祈りで賛美歌を歌っていた。  
 一行は連れて行くNPCをクリムゾンアイとホワイトに変更。ホワイトの提案で一年前に発生したという火災の跡に行ってみることとなった。ホワイトには心当たりがあるらしい。

<b>シンシア・ザ・ファントム</b>	深海の蒼光 11/5 23:05~11/6 22:19
---------------------	-----------------------------

火災の跡は一年経過して復興しているようだった。かなり多くの犠牲者が出たらしい。  
 ホワイトは集合住宅の303号室に幽霊が出るという噂を覚えていた。幽霊と聞き、アンデッドが苦手なアロンザとお化けが苦手なディルとルクレシアが反応した。ホワイトが幽霊について解説をする。

<b>ホーント</b>	未練のある死者の念がこの世にとどまり、自然発生するアンデッド。身体が残っているものをゴースト、身体が崩壊したものをスペクター、思念だけが残って既に何にも干渉できないものをファントムと呼ぶ。ゴーストを倒すとスペクターになり、スペクターを倒すとファントムになる。ファントムになると基本的に何もできないが、聖騎士（リムーブアンデッド）、また仏門のプリースト（般若心境？ 無無明亦無？）などの特殊なスキルを使うか、（ファントムの持つこの世への）未練がなくなると消え去ることがない。一般的にレベルは5程度。
-------------	--

問題の303号室に来るとプリーストやドルイドは不死者の気配を感じる。露骨な気配で部屋に入ればすぐに分かりそうだ。  
 空き部屋だったので堂々と侵入。意外に明るい2LDKの何もない部屋だったが、右奥の部屋に透き通った女性のゴブリンの幽霊がぼんやりと何かを呟いているのが見えた。『月月火水木金金月月火水木金金、毎日労働…うふふ…月月火水木金金、月月火水木金金…うふふ…』呼びかけたが正気を失いかけているようなので反応はない。ホワイトによると強い光か音を当てることで正気に戻せるようだ。  
 ディルの神聖祈祷で光を当てることで、幽霊は我に返った。最近では正気を失いがちのようだ。未練はあるが恨みはないようで襲ってくる気配はない。  
 女性の名前はシンシアで、映画館の異界を作っていると思われるゴブリンの恋人の霊で間違いのないようだ。  
 シンシアに対して細かい話をしようとしたが、シンシアは思念体なので細かい話は理解できず、チケットや恋人の手帳などを見せても無反応。またぼんやりと呟きを再開する。ホワイトによると思念体とは人間のように会話できず、自分語りをさせるのが精々らしい。  
 再びディルの神聖祈祷で注意を向けさせて、今度はシンシアから語らせた。

シンシア『未練、未練…ああ、そうだ。お礼を言わないと。お礼を言いたいです。お礼を…休みは無い、たまに風邪をひいてもそれは休息のためであって、休むという概念もわからなくて。でも、始めて有給をとって、特に意味もなく一日を翌日の準備の為に過ごしてみてもいい。マフラーを編んだりして、ああ、こういう生き方もあるんだなって思えて。お礼を言いたかったの。アトム、次はいつお休みを取りましょう。マフラーを編んでみたの。温かいかしら。一緒に出掛けて、一緒に働いて、一緒にやすんで、次は劇場に行きましょうね。そして、それが終わったら、一緒に家に帰りましょう。私はずっと一緒にいるから。私、とても幸せよ。働くことしか知らなかった私にお休みを教えてくれてありがとう』

シンシアの言葉は星霊術で貝殻に録音して永続化した。シンシアの言葉から映画館の男の名前がアトムだということも判った。シンシアの思念があとどのくらい存在できるかはホワイトにも分からなかった。シンシアにしてあげられることはマフラーの袋に入っていたカードをアトムに渡すことくらいだろう。

一行は映画館に行く前にホテルに立ち寄ってテレサから助言を得ることにした。

## 解決ではなく共感を

深海の蒼光 11/6 22:32~22:44

ホテルでテレサに事情を説明して助言を得ようとした一行だったが、テレサは助言などなくてもアトムに良い言葉をかけることができるだろうと言った。

テレサ	その時、何を話そうかを悩まなくても良い、話しかける言葉はその場で必ず与えられるという言葉があります。大丈夫ですよ。貴方達なら、助言など無くても良い言葉を彼にかけることはできるでしょう。
クリムゾンアイ	我々に必要なものは解決ではなく共感、か。なるほど。そうだな、確かに…我々ゴブリンは自己主張はしても共感するという概念は乏しい。何故かはなんとなく察することができるが。
テレサ	神の御心は深遠です。安易な解決のみが人の道に光をあたえるものではありません。少なくとも、私達の仕事は彼らの問題を解決することではありません。

芸術は共感の一種ではないかという言葉に、クリムゾンアイはゴブリンは芸術を高く評価してこなかったと言った。一行は再び映画館へと向かった。

## 映画館 第二幕

深海の蒼光 11/6 22:45~23:47

異界のエレベータには特に変化がなかった。映画館に着いてみると、映写室がもう一つ塞がっていた。サイネージのうちの 하나가真っ赤なドロドロで染まっていて元々のタイトルも判読できない。ガチ勢の誰かが閉じ込められているようだ。救出は考えるなど一行はホワイトに釘を刺された。この異界では一度捕まったらもう助からないという。

ホワイトによると、この映画館は同じ好みや価値観を持っている人だけで入ると捕まってしまうようだ。だから、十人で映画を観てバラバラな感想を抱いた一行は正解だったという。捕まっているのがジェイスである可能性は低いようだ。

ルクレシアが試しに閉まっている映写室の扉に耳を当ててみると、気味の悪い声と狂ったような大歓声が聞こえた。気味の悪い声はルクレシアがスクリーンに引っ張り込まれた時に聞いた声と同じだった。ディルも声を聞いてみたところ、大歓声をあげているのは一人だけだったが、いろいろな声が入り混じっていた。

元から閉まっていた『ノルマの休日』を上映していると思しき部屋は相変わらず扉が溶接されているようだったが、キーアイテムを近づけると強く光り始めた。光の窓と同じような現象。シンシアの声を収めた貝殻を当ててみたが無反応。光る扉を開けようとしたが開かない。ここで、一行は魔鉱石を使うことにした。

## 炎の映写室

深海の蒼光 11/6 23:47~11/9 23:55

魔鉱石を割って光の扉に近づけると扉に穴が開いて映写室の中に入れるようになった。映写室の中は火事になっていて燃えているが、中央付近でゴブリンが一人ぼんやりと映画を観ている。炎は本物のようだが、ゴブリンのところまでは近づけそう。ゴブリンの男の姿にクリムゾンアイが反応した。映画館にいたのは武勇で名高い將軍にして第一軍団長アトムだった。クリムゾンアイに国防の要とまで言わせるアトムはゴブリンジェネラル。モンスターデータではゴブリンジェネラルのレベルは8だが、アトムは軍団長なのでさらに高いようだ。

アリーヤとアロンザとディルとハンスとルクレシアがアトムの方へと近づく。アトムはぼんやりと映画を観ている。映画自体に異常はない。アトムにマフラーと一緒に入っていたカードを差し出すと、ようやく意識がアロンザたちの方に向いた。二人で観るはずだった映画をゆっくり観ることができるというアトム。アトムによると、カード（おそらくマフラーも）は焼け残っていたらしい。アトムはシンシアの死が自分の責任であるかのように思い込み、シンシアは自分を恨んでいたに違いないと決めつけていた。アロンザはシンシアに会ってきたとアトムに言い、アトムはシンシアがまだ303号室にいと悟って正気に戻った。

アトムが立ち上がろうとするところに床から無数の腕が伸びてきて妨害するが、ディルとアロンザとハンスとルクレシアとアハトがなんとか力でアトムを引っ張り出すと、映画館が赤い肉壁に変化して火災も燃え広がった。光の壁のときと同様に大量の人影が追ってくるがエレベータに逃げ込んだ。もう一つの映写室に閉じ込められていたガチ勢を救出する余裕はなかった。エレベータが攻撃されることはないようだ。エレベータに映画館が危険だと注意書きを加えると、アトムを連れてシンシアの幽霊がいるところに行くこととなった。

## 再会ならず

深海の蒼光 11/10 22:08~22:45

アトムとシンシアをなんとか再開させようと再び集合住宅の303号室に来た一行。

しかし、303号室に入ったところ、時既に遅く、シンシアの幽霊は消滅していた。

アトムにせめて声だけでも届けようと、録音済の貝殻をアトムに渡す。

貝殻に収まったシンシアの声を聴いて、アトムは泣き崩れた。

アトムはもうシンシアに再会できない。普通は絶望して寄生虫になるはずだが、そうならない。

一行に礼を言うアトムの姿。クリムゾンアイはなぜ寄生虫が発生しないのかと理解できない。

悲しみの淵から戻り將軍としての自覚を取り戻したアトム。

ここでようやく変装していたクリムゾンアイに気づき跪いた。

少し考える仕草をしてから、クリムゾンアイはアツマノクニに行き巫女に黄泉比良坂の

神聖祈禱を行使してもらうことで、シンシアを死後の世界から連れ戻す旅に出ることができると話す。

將軍という務めがあるからと辞退しようとするアトムだったが、クリムゾンアイは彼に休暇を与え、過ちを悔いているのならアツマノクニにたどり着きシンシアと添い遂げろと命じた。クリムゾンアイは情けや優しさで命じたのではなかった。クリムゾンアイはアトムにゴブリンの閉塞を打ち破る可能性を見出していた。

口々に危険すぎると主従に言う一行だったが、二人の決意は揺るがない。どれだけ危険かつ困難であっても、愛する人への禊だと言い切るアトム。旅立ちの準備をするために戻っていったアトムを見送りながら、クリムゾンアイは一行に、アトムが敢えて困難な旅を成功させることにゴブリンの未来のための可能性を見出すという真意を明らかにする。一行はホテルへと戻った。



## 無明のギャングラー

深海の蒼光 11/10 22:46~23:21

ホテルに戻ると、リサが教えられたポーカーでユラとテレサをカモにしていた。ユラがイカサマを仕掛けようとしても全てリサにバレるらしい。ギャグシーンを挿みつつ、一行はテレサとユラに報告をした。

テレサ『ゴブリンはこれまで、共感する、感情を分け与えるという概念を知らずにここまでやってきました。ゴブリンには仲間の被害を見て自分への被害を押し量る想像力こそありますが、他に対する共感する能力はありません。なぜなら、共感能力は、彼らのあるべき姿、即ち、殺人、強奪、略奪といった行為に対して情けを産むからです。ひどいことが起こるのを見たくてゴブリンと言うものを想像しているのに、日和った惨劇を見ても楽しくはありません。だからゴブリンには共感の能力が無いのです。いや、知らされていないといったほうがいいかもしれません。しかし、共感という一つの選択肢を得ることで、ゴブリンはもしかすれば、本当の意味での絶望に陥らなくて済むのかもしれない』

共感を覚えることで、ゴブリンは進化するのかもしれない。たかが共感程度でゴブリンの状況が変わるということを信じられないクリムゾンアイは、部屋の隅で考え込み始めた。

集合住宅でシンシアに逢えなかったアトムが他のゴブリンと同様に寄生虫にならなかったのは、アトムが共感を得て進化を遂げた可能性が高い。リサもまた絶望を克服したわけではなかった。セフィたちが気持ちをわかってくれたから頑張れる気になった。克服はできていないけど頑張れるという気持ちのようだ。リサもまた進化を遂げたのかもしれない。

一行は入浴と食事をし、ディルはアトムのためにアヅマで通用しそうな紹介状を書いた。

映画館に入っている間の経過時間を知るためにユラに経過日数を確認したが、日帰りになっていたようだ。懐中時計を確かめると、アトムの映写室に入っていた時間に発生したと思われる5時間ほどの体感時間とのズレがあった。

その夜は全員で睡眠をとった。

## 旅立ちの朝

深海の蒼光 11/10 23:28~11/11 20:30

一行が朝食を摂り、朝の8時に完全武装したアトムがホテルに現れた。

アダマンタインの全身鎧に黒光りするオリハルコンの剣を携えている。

ディルは夜のうちに書いておいた紹介状をアトムに渡した。

コレットも、映画館で拾ったチケットと指輪とネックレスと手帳とマフラーをアトムに返した。(マフラーと一緒に入っていたカードは既にアロンザが映画館で返却済)

コレットはアトムから貝殻のお返しにと小さな盾(聖ジョージの円盾)を受け取った。

アヅマを目指すことになるアトムにアヅマで抜き身の剣を携えることに関して忠告をする。

アトムの持つ黒いオリハルコンの剣は鞘に収められないものだったので、

普段は布を巻いておくようにアドバイスをした。

そして、城の異界がどのようにしてできたのかをアトムに訊くと、彼は話し始めた。



## アトムの証言

アトムは皇弟マゼンダの護衛をしていたが、或る日突然(北のアルマーヤの方角の)空から何やら、赤黒いよく分からないモノが降ってきた。王座の間に突然現れるなり、周囲に居た者や、城にいた者の背中が次々と割れて、城が異界に飲み込まれてしまった。

アトムは赤黒いモノの中から次々によくわからない黒い人影が現れるのを見た。その黒い人影から、次々と影のような妙なものが現れてアトムたちを捕らえていった。アトムもその時に捕らえられ、押し殺していたはずの後悔が溢れて映画館の異界に囚われた。アトムはその時皇弟マゼンダを守ることができなかった。どうなったかは分からない。

劇場やトキワソーの異界が発生したときのことはその場の対処で手一杯だったアトムにも分からなかった。

骨竜帝モトの仕業の可能性もあるが、クリムゾンアイにも意図はわからない。しかし、大広間（玉座の間）に黒い人影が現れたのなら皇弟マゼンダの異界を排除（解決？）することで状況が好転する可能性が高い。城の異界の中心部を目指すべき。

リサは目が不自由だったので黒い人影に捕まったことに気づかなかっただろうとテレサが補足した。

アトムはやたらと恐縮していた。

クリムゾンアイに赤黒い何かと黒い人影についての知識がないかを訊いた。

クリムゾンアイ『私も何度か見たが、あれは私達ゴブリンの中に入っているどろついた何か、そのものに見える。我々ゴブリンを、一応でも人の形たらしめている、人間性のようなものをそのまま形にしたかのような。私達ゴブリンは、もともと「あいうもの」がガワを被っているだけなのではないかと思えてならない何かだ。すまん言語化しにくい。（ゴブリンという器に入っているデバイスリフレクターのような液体よりも）もっと悪意に満ちた何かだよ。それこそ、人間の泥ついた欲望が物質化したような何かだ。下卑た話だが、女がどうにかなる卑猥な舞台の脚本を作りたいと戯曲を書くとき、「ひどいことをしたい」という筆者の目的が、化け物や、外道な男たちという手段を得る事で具現化する。そんな「筆者の目的」は、具体的な「ガワ」をまとうまで具現化することはない、が…しかしそれはたしかにあるのだ。ガワを求めどろついた欲望としてな。あの人影は「そういうもの」とおなじ臭いがする。そんなところだ』

アトムは証言を終えると、旅立っていった。

クリムゾンアイの話聞き、天秤の騎士アインスの介在の臭いがするとコレットは感じた。

コレットはアトムからもらった小さな盾を鑑定した。

聖ジョージの円盾：竜殺しと言われた聖ジョージ、別名聖ゲオルギウスの用いたと言われる奇跡の盾。この盾は所有者の周囲に常に浮かんで所有者を守り続ける。回避+1のスマールシールド。回避+1、遮蔽+5の魔力が宿っている。オリハルコン製。この盾は、両手ではなく、「アクセサリ」として装備する。重さは1。アーケレジェンド。特殊能力：VSドラゴン ドラゴンブレスの貫通ダメージを半減する。（切り上げ）

性能を知って一層感謝をするコレット。アトムが守りを捨てた決意の現れだとクリムゾンアイが言うと、コレットはアトムの守りはシンシアを救うと決めた心の中にあると返した。

一段落したところで、『終わらない夕暮れ』に行くこととなり、クリムゾンアイとユラを連れて行くこととなり、一行は城の異界へと出発した。

## エレベーターガールと何も無い部屋

深海の蒼光 11/11 22:35~11/11 23:24

城の異界に入りエレベーターを呼んだ一行だったが、エレベーターの扉が開くとエレベーターの中の様子が全く違った。

中が綺麗に清掃されていて、ガチ勢の注意書きもない。そしてEG（エレベーターガール）が乗っていた。

EGは注文通りの行き先に連れて行くと言う。EGは幻影ではないが人間とも思えない。

ユラによると、フロア（異界）をクリアするたびにエレベーターは違うものに入れ替わっているという。EGがいるのもそんなエレベーターのうちの一つなのだろう。EGに『最深部へ行く』か『マゼンダの所に行く』と言えば皇弟マゼンダのいる異界にも連れて行ってくれるようだ。

ユラの推理では、ガチ勢はみんなEGに皇弟マゼンダのいる異界に連れて行かれたからこそ一人も帰ってきていないのだという。

皇弟マゼンダのいる異界は罫や何かの段階を踏まなければならないという類のものではなく、単純に難度が高いのだろう。

EGによると、以下のような行き先があるらしい。

サービスカウンター	ゲームセンター	レストラン	美術館	お土産ショップ	居住地域
-----------	---------	-------	-----	---------	------



行き先の選択で困る一行だが、ユラは秘策があるようで自信満々。一行はユラに次の行き先を委ねた。

ユラ『このユラさんの秘策、それは——ジェイスの居る階に移動する！たのむよ！』

EG『かしこまりました。——（聞き取れない）階でございますね』

ジェイスなら絶対に本当の最深部にたどり着いていると信じるユラはドヤ顔。EGはにこにこしている。

エレベータが着いた先は真っ暗な空間だった。入口の近くの床面に共通語で『降りるな！』と殴り書きがしてあった。

灯りを投げ込もうとしているところに暗闇から『おい、お前ら、降りるな。ちょっとまで、扉を閉めるな』と、声がした。

すぐにくたびれた感じのエルフがエレベータに飛び乗ってきた。ジェイスだった。

ジェイスが居たのは何もない空間。エレベータのボタンもないからエレベータが呼べず困っていたようだ。そこは誰かがたまたま来るまで外に出られない異界だった。ジェイスの体感では五年間が経過していたらしい。彼以外は餓死で全滅した。精霊術で生命機能を低下させることで仮死状態になりなんとか生き延びてきたジェイスだったが限界が近かった。ジェイスに水を与えると一息ついたようだったが、一行は落ち着いて話をするために一旦ホテルに撤収した。

## 遭難者の証言

深海の蒼光 11/11 23:24~11/12 23:03

ホテルではリサとホワイトとテレサがジェンガで遊んでいた。

ホワイトとテレサでジェイスを衰弱状態から回復させて、お腹に優しい食事を与えた。ジェイスは日常生活なら可能だが戦闘はできそうにない。さっそく一行が得た情報も共有しつつジェイスを質問責めにした。

## ジェイスの証言

EGは人間ではないようだ。客が漠然と言ったことを、何故か正確に読んで行き先を指定する。例えば『垂直落下』に行きたいといえば勝手に入力してくれる。

コマンド入力の方法はEGから得たわけではない。EGがいる時は基盤（ユーザインタフェース）の形も違うので参考にできない。

ジェイスは40ほどの異界を回った。全部クリアはしたが特に収穫は無かった。まるでアスレチックでもやらされている気分だった。

皇弟マゼンダの居る玉座まではエレベータガールに依頼することでたどり着ける。ジェイスは四回目ぐらいには分かっていたが、異界攻略が面白いので無視して色々回っていた。エレベータガールは、大体十回に一回ぐらいの間隔で現れた。

他のガチ勢も攻略法に気づいたようで、人数を揃えて皇弟マゼンダのいる異界に行くことになり、ジェイスも誘われてついていった。皇弟マゼンダの居る最深部には、玉座が一つあるだけで他には何もなかった。そこに行き先が二つ示されていて、二手に分かれて進むこととなり、ジェイスのいる方はそのまま何もない部屋に入り、ジェイス以外は全員餓死した。もう一方で何があったかは分からないが、全滅している可能性が高い。『何もない部屋』からはどこにも行けないから終点なのだろう。

『夢ならよかったのに』は仮眠室。いろんな連中が寝ており、その中に自分も寝ている。自分を起こしてしまうと、その時点で起こした者が消えて、寝ている者が起き上がって起こした者と入れ替わる。記憶も人格も全く一緒だが、同一人物かどうかは、他人も本人も分からない。自分を見つけても起こさずにいればクリアはできる。

『自爆コマンド』は扉を開いた瞬間、異界全体が爆発する。エレベータにいれば爆風は来ないので、出なければ平気。

ジェイスが最初来た時は、五つのエレベータのうち、三つは動いていた。（現在は一つのみ）ジェイスたちが全滅したことで、異界が犠牲者を飲み込み終えて「満足」したのかもしれない。一行が全滅したら、満足して異界も消えるかもしれない。

皇弟マゼンダの空っぽの玉座にたどり着いた時、ジェイスたちでは文字通り『意味がない』状態だった。この『ゲーム』の本当の趣旨を見出した一行なら空っぽの玉座に意味を見いだせるのかもしれない。

『垂直落下』はエレベーターが開いて外に踏み出した瞬間重力が下を向いていて落ちる。対応できないととりあえずそこで死ぬ。上手く底に着地すると、今度は重力を反転させるモンスターに襲われる。落下して死んだ者の死体はそのモンスターに喰われる。

『終わらない夕暮れ』は、歩くごとに（歩いた者の主観で）時間の流れが急激に早くなり帰ってこれなくなる。（エレベータ側から観測すると歩く者の動きが遅くなる）端まで行くと戻ってくるのに往復で3000年ほどかかるので実質ロストする。死んではいけないので復活もできない。

『お一人様』は食堂。一人で入る間は特に何も無いが、二人で入って（二人がそれぞれ）別の方向を見た瞬間どちらか一人が（おそらく光の窓の外の空間や、映画館のスクリーンの向こう側のような空間に）連れていかれる。

『映画館』のサイネージは、触ろうとすると手を掴まれて引きずり込まれる。（映写室のスクリーンと同様）映写室の中の時間の進み方に異常がある。

『玉座の間』には翼のようなものはなかった。エレベータのボタンはある。

エレベータはひとつの異界をクリアするか、二つの新しい異界に足を踏み入れるかをすれば、他のエレベータと入れ替わる。

ジェイスより情報を得たところで、『玉座の間』か『サービスカウンター』に行くつもりで、クリムゾンアイとジェイスを連れて城の異界へと向かった。

## EGの笑み

深海の蒼光 11/12 23:03~23:33

エレベータを呼ぶと、再びEG（エレベータガール）の乗ったエレベータが来た。

『サービスカウンター』がどのような異界かとジェイスに訊くと、床から天井までびっしりとエレベータのコマンドが書いてある異界とのこと。そこで、『玉座の間』に行くこととなった。

『玉座の間』へ行くためにEGが胸にかかった鍵を使って操作盤の南京錠を外して蓋を開き、その奥のボタンを操作する。ジェイスが以前に『玉座の間』に行ったときには鍵で蓋を開けるようなことはしなかった。そして、開いた扉の向こう側は夕焼けに照らされ肉塊でできた廊下がピクピクと蠢く異様な場所だった。ジェイスが行ったことがある『玉座の間』は普通の廊下。どうやら、そこはフェイクの玉座の間だったようだ。

にいと笑みを浮かべたEGにディルが掴みかかると、EGが無表情で『従業員への暴行は規約違反となっております』と告げる。すぐにエレベータがEGを乗せたままで真逆さまに落下していった。間一髪で降りた一行だったが、ボタンを押してもエレベータは反応しない。先に進む以外の選択肢はなさそうだ。

## 肉塊に浮かぶ玉座

深海の蒼光 11/12 23:34~11/13 22:19

肉塊が蠢いてはいるが、襲ってくるような気配はない。時々、金属が軋むような音が聞こえて、周囲から気味の悪い視線を感じる。空を見上げると真っ赤。クリムゾンアイに訊いてみると、アルマーヤに渡るときもこのような赤い空だったらしい。ただし、その時は軋むような金属音は無かった。真っ直ぐに伸びた道を進んでいくと、T字路になり回廊へと繋がっていた。3mほどのマネキン人形のような人影があったが置物のようだ。金属の軋み音の出处はまだ分からない。回廊の先のうち片方は崩れていて、その先は何もない空間になっている。その先に進むと何処かに落ちてしまいそう。崩れていない方の道を進んでいくと、玉座の間に出た。ジェイスによると、構造自体は元々の玉座の間と同じようだった。



うろうろと蠢く肉塊の中に玉座はあった。ぼんやりと光っていて、玉座の上には血まみれで読めない紙が置かれている。クリムゾンアイは紙については心当たりがなさそう。彼が玉座に近づくと、玉座の放つ光が強くなった。玉座にアプローチをかける前にクリムゾンアイに皇弟マゼンダの言葉を受け入れられるかと、覚悟を確認した。

クリムゾンアイ『分からなくなっている。俺は、モトに聞かされたことを、今思えば丸呑みにしていた。実際背中では割れて化け物は現れた時にそれは確信に変わった。抜け道があるかなんて考えもしなかった。俺は……いや、私と共に考えてくれる者など誰もいないと思っていた。弟すら、ただ私の理解についてこられないだけの、愚者だと決めつけていた。今考えたら、弟はそれでも、と私に対して語り掛け続けてくれていたかもしれないのに。今なら、新しい道を、弟と一緒に探っていけるのかもしれない…と、そう思うよ』

クリムゾンアイは皇弟マゼンダと向き合うことができる。その手応えを感じた一行は、クリムゾンアイと光る玉座に近づいていく。さらに光が強くなっていく玉座。クリムゾンアイは玉座に座ることが必要と悟り、玉座に腰掛ける。玉座に座ったままで魔鉱石を割って玉座に押し込んだ。

## 人形劇

深海の蒼光 11/13 22:19~23:07

魔鉱石を玉座に押し込むと、床からフードとマントに身を包んだ何かが床から浮かび上がってきた。口からはクリムゾンアイとのすれ違いを嘆く言葉が漏れてくる。

???『ああ、ああ、僕は、僕は、なんでわかってあげられなかったんだろう。兄さんは、誰よりもゴブリンの事を考えていたのに。僕が兄さんの乗る船をすり替えたんだ。本当はアトムや精鋭が乗っていたはずの遠征船に学徒兵をのせて。兄さんはもう戻ってこない、僕が殺してしまった。あやまりたい、話しあえば、もっと話し合えばよかったかもしれないのに……つらいんだ』

クリムゾンアイ『アトムたちが船に乗っていなかったのは知っていた。だが国防の方が優先であるからと王宮に返したのは俺だ。学徒動員兵を率いたのも俺の判断だ。マゼンダは関係ない。見たことのない顔だ。貴様は誰だ』

床から浮かび上がったのは皇弟マゼンダではなかった。丸いのっぺらぼうのお面をつけた姿に変わる『それ』。大仰な芝居じみた言葉遣いと仕草で一行を煽ってくる。

のっぺら『ぶっくっくっく……いやあ、すまない、ちょっと面白いから僕も真似をしてみたくてね。おかえりクリームゾン・アイ！ ようこそ、僕の実験空間へ！素晴らしい、またおもちゃが帰ってきてくれて僕は嬉しいよ！！そして、ようこそホオヅキの冒険者達、クリアおめでとう。歓迎するよ、どうだったかな、僕がつくったゲームは？僕は嬉しいよ。ゲームは攻略するものだ。下調べもせずアスレチックと勘違いするような連中は死んで当然だ、でも君たちは賢い、そう、賢い。とっても素敵な、観察対象だ。いやいや、すまなかったね。手持ちにあるのがゴブリンの中身しかなかったものだから。でもどろどろして、どす黒くて、真っ赤で、素敵だろう。人間の下卑た欲望そのものを可視化するとこうなるんだ。実に興味深い』

口々に不快感を表す一行。コレットが骨竜帝モトの人形かと言えば大仰な反応をする。

のっぺら『エクセレント！素晴らしい、大正解だ。君は人間ではない。随分と不細工だが、人間が必死につくった人形だ。ちゃんと生きている、すばらしい！なんていとおしい、まるで幼子たる我が子が作ったへたくそな粘土人形を愛でる気分だよ！君を愛してあげよう』

思わず不快感を示すコレットを尻目にのっぺらは自己紹介を始めた。

のっぺら『おっと、そうだそうだ、名乗らなければ。初めまして素晴らしき人間の英雄たちよ。僕は肉と鱗の無い竜、ポーンドラゴンロード、モトだ。……厳密にはモトによって作られた使い捨ての人形だがね？ オリジナルのモトは今頃多分昼寝でもしているのではないかな。でも大丈夫、僕が壊れればちゃんと僕の記憶は本体へ転送される。次に会ったときは君達一人一人の名前を呼んで愛してあげよう。竜は約束は守るのだよ』

セフィとアリーヤが何故わざわざホオヅキの冒険者を呼び込んだのかと問いかけた。

のっぺら『よし、質問に答えよう。まあ、いろいろ細かいところは省くが、要するにひまつぶしだ。僕の可愛い紅目（おもちゃ）が人間に捕まってしまうと暇なんでね。つまらない紅目の弟で、何とかちょっと面白い暇つぶしができないかなと考えてね。こう見えてよーく考えたんだぜ。めそめそしてるだけの発展性もない、面白みもない屑をつかって面白くするにはどうすればいいのか。少し一歩乱起こして、このまじめ腐った「ぬけがら」で面白いことをする方法は無いかな』

セフィとクリームゾンアイは皇弟マゼンダはどうなったのかと訊いた。

のっぺら『マゼンダ？ああ、紅目の弟君ね。ああ、彼なら——消滅したよ。この異界を作るのにちょっと泥が足りなかったんでね、背中を割って中身を使わせてもらったよ』

人形は絶句したクリームゾンアイをさらに挑発した。

のっぺら『抜け殻ならここにくる途中でなんか人形みたいなのが立ってただろう。あれだよ』

アリーヤとディルが激昂しないように、絶望しないようにと声をかけるが…

クリームゾンアイ『きさまあああああああああ！！！！』

のっぺら『あああああああ、たのしいiiiiiiii』

しかし、骨竜帝モトの思惑は外れ、クリームゾンアイは寄生虫に冒されなかった。

のっぺら『背中が割れないなあ。僕の計算だと、ここで紅目くんの背中が割れてとってもキュートなベイビーが誕生するはずだったんだけど』

クリムゾンアイ『ふん、どうやら。そうもいかないらしい。こんな俺でも、「共感」してくれる仲間らしき存在は、既にここに何人もいるらしいぜ』

一行にげんなりした空気を向けるのっぺら。

のっぺら『ええ、困るよ君達。なにしてくれてんの？あのねえ、ここに来るためのゲームとして可愛くもない下品な子供や、めそめそしているだけの醜い不細工を助けた。それは解る。でもさあ、ゴブリンなんかと解りあおうとか、頭がおかしいのではないかね？こいつらは、下品な薄い本で、下品に女をレイプし、人を殺し、持ち物を奪うためだけに生まれてきた存在そのものが下衆な生命体なんだぜ。君たちはこの、下賤な小鬼を殺すはずの「役割」だろう？「冒険者」。何ゴブリンなんかと解りあおうとしてるんだね。「冒険者」なら、ゴブリンを殺せよ。それがサーガだろう。それが「役割」だろう？英雄なら英雄らしく、こういう薄汚い生き物は批難して踏みにじって殺さなきゃ……』

一行は口々にのっぺらの言葉を否定する。

のっぺら『おはなしとしておもしろくないだろう！！？ なにをやっているんだきみたちは！！』

それぞれの言葉で一行はのっぺらの言葉を否定して皮肉や罵倒を浴びせる。

のっぺら『まったく。これだから最近の人間は嫌なんだ。王道から外れて、何やらそれっぽい理屈を作れば面白いと思っている。この逆張りガイジどもめ。共感なんて君たちのサーガを見ている人間がすればいい。君たちは共感なんてするなよ。悪いやつはわるい。ダメな生き物は何をやっても駄目だ。殺さなきゃ化け物を』

ここでセフィとミズキが倒す相手は骨竜帝と口にした。それに喜ぶ骨竜帝。

のっぺら『ははは、なるほど。僕を悪の竜として、化け物として退治すると。素晴らしい！！』

皮肉や否定を返しながら、一行は骨竜帝との戦いへと売り言葉に買い言葉を並べていく。

のっぺら『よろしい、それでこそ英雄だ。英雄は化け物を殺すエゴイストだ。だがそれでいい！化け物は死ね、お前は目障りだ、消えろ、そのための暴力は許容される。さあ、では僕に向かってきたまえ、完膚なきまでに滅ぼしてみたまえ。情けなど不要だ。悪役に過去の回想なんてもってのほかだ。共感なんて要らない。悪役の回想シーンで一巻つかう物語なんてくそくらえだ。さあ、そういうことならば剣を抜いてかかってきたまえ、僕は君達とのサーガを作る暇つぶしの為に世界を滅ぼすことに今決めたよ。僕を止めて、完膚なきまでに殺してみたまえ、そうでないと、今日この場から世界は滅ぼされてしまうぞ。ドラゴンロードが、世界を滅ぼす力をもっていることは、君達もヴォルケイノとの一件でよくわかっているだろう』

ジェイス『気持ちよくしゃべってる所悪いが……長々とご高説頂いている間に。時間切れだぜ。お楽しみの時間だ』

魔鉱石の効果時間の5分間が過ぎていた。マナが一行にも戻ってくる。

のっぺら『素晴らしいタイミングだ、良い脚本だ。さあ、あがいてみたまえ英雄たち。僕を倒せばこの異界も元に戻るぞ』

戦闘を前にモトの人形を見極めるセフィ。モトの人形の詳細が明らかになる。

木偶（モト）Lv12 モトの魂が分割された木偶人形。木偶ではあるが、モトの魂が一部分分割されているためにその辺りの上位魔族よりよほど強い力を持っている。モトと同じ人格を共有しているが、本体との記憶の並列化は魂が回収された際に行われる。  
HP 300/300 敏捷18 回避20 物理防御19 魔法抵抗20 精神攻撃無効 即死攻撃無効 拘束無効 睡眠無効 ホバー移動(30cm) 非金属鎧 疑似五感 側面・背面ペナ有り 回避回数ペナ有り

## ラストバトル

深海の蒼光 11/13 23:07~11/14 23:52

木偶（モト）との相対距離は10m。戦場の広さは木偶（モト）を中心とした半径50m。戦闘を前にしてのっぺらは一行を煽り立ててくる。ジェイスはさっさと戦闘に巻き込まれない位置に移動した。

のっぺら『もっともっと、憎悪（こころ）を込めて、憎んで。たった二つの異界程度じゃ、満足できなかったかい？あと何人かぐらい、ゴブリンの心を踏みにじったら、君達も怒ってくれるかな？さっきの紅目君の叫びは実によかったんだが。よし、とりあえず海峡周辺のゴブリンの村をどうにかしよう。どんな風に仕上げれば君たちが怒ってくれるかよく考えよう。母親が子供を食べるようにすればいいかな。それとも兄弟同士で殺しあうようにする？そんなお話はありがちで食傷気味かね。子供を産んで産んだ子供に食われて、その子供が産んでなんて光景をみせればいいかい？ううん、えげつないシナリオが思い浮かばないなあ。どこかにえげつない光景を考えてくれるブレインがいるとすばらしいんだが。よし、そうだ、子供を並べて断末魔の絶叫を上げる楽器を作ろう。さすがに目の前で演奏されたら君達も怒ってくれるに違いない。人間の感情っていうのは面白いなあ、実に、愛しいがある。感情あつての人間、劇場あつての物語、さあ、もっともっと、憎悪（こころ）を込めて、僕の暇つぶしに付き合ってくれたまえよ！』

## 1ターン目

【壁】-50m-【木偶（モト）】-10m-【アロンザ・ディル・ハンス】【アリーヤ・セフィ・（ルクレシア）・クリムゾンアイ】  
【ミズキ・コレット】-40m-【壁】

木偶（モト）HP 300/300

セフィがダブルキャストをかけながら人形のスーフィーを舞う。ハンスはエンチャントルーン（氷）。ミズキはにゃんこスタイル。ディルが集中と騎士宣言。

セフィがエンジェラスで全員に防御力を付与し、さらにフィジカルパーフェクトでコレットとルクレシア以外にエンチャントをかける。ミズキが隠九尾・斬首で手数を稼ぐが全て防御を抜けない。コレットの放った二矢も一射は外れ、もう一射はかろうじてかすり傷を与えた。

木偶（モト）がここでミズキを煽ってきた。

テレポートで側面に回ったアリーヤがライフルを発射し手傷を与える。ハンスも側面に回って氷をまとった魔法剣を当てるが防御を抜けない。正面から進撃したディルがジャンヌ・ダルクの剣や金の斧で大ダメージを与えた。アロンザは少しだけ前進して攻撃前の溜めを始める。

木偶（モト）は【アンチ・デバイスリフレクト】をかけて、超英雄ポイント、アミュレット、振り直しスキル、アイテムの一切が使えなくなった。

さらに木偶（モト）がコレットを煽り、乗せられたコレットは激昂した。その反応にご満悦の木偶（モト）。

## 2ターン目

【壁】 -50m- 【木偶（モト）】 【アリーヤ（右側面50m）】 【ハンス（側面1m）】 -1m- 【ディル】 -8m- 【アロンザ】 -1m- 【セフィ・ルクレシア・クリムゾンアイ】 【ミズキ】 -3m- 【コレット】 -37m- 【壁】

木偶（モト）HP 207/300

セフィはダブルキャストをかけて人形のスーフィーを舞う。ディルは騎士宣言と集中。ミズキはにゃんこスタイルを継続。アロンザは全力宣言。アリーヤは魔装術を使用。ルクレシアは『守護鳥』と『精霊』を歌う。

木偶（モト）はダブルキャストをかけ、さらに一方をファストリックとした。

木偶（モト）は【グラヴィティ】を使用。連撃・独立複数回攻撃を封じ、移動距離を3mまでに制限してきた。圧倒的な呪力に対しコレットがアンチマジックをダムビットで発動させるがほとんど効果はない。はっきりと拒絶（6,6）をしたアリーヤ以外は押さえつけられそうになるが、ルクレシアがアドリブをかけて『微睡の丘で』と『精霊』に曲を変更し、グラヴィティの効果発動を遅らせた。

もっと憎しみを煽ろうとする木偶（モト）だが、感情の揺れを見せることがモトの興を刺激すると分かっている一行は薄い反応に終始する。そして、モトは憎しみをかきたてるためには、一行のうちの誰かを傷つけ殺すことが有効だと気づき、獲物の物色を始める。

ミズキが先陣を切って切り札の『隠九尾・煉獄殺』を発動。一気に大ダメージを与えた。セフィは一手目でハイパーストライクでブルーティッシュボルトを集中させて打ち出しながら突撃し、バイオレンスラッシュで追い討ちをかけた。ブルーティッシュボルトはダメージにならなかったが杖（の状態のフォルトゥナ）を叩きつけて若干のダメージを与え、二手目で剣（の状態のフォルトゥナ）により魔法剣プラストを撃ち込んで着実にダメージを積み重ねる。アロンザは溜めた力を開放して斧で殴りかかったが力んだのか斧がすっぽ抜ける。コレットは歩行射撃でアリーヤの反対側に展開してロングボウを連射するが防御を抜けない。アリーヤは魔装術のオーラを纏って突撃しドラゴンレイジ（カタル）で斬りつけて少なからずダメージを積み重ねた。ディルがジャンヌダルクの剣と金の斧を叩きつけたところで、木偶（モト）をギリギリ破壊することができた。

しかし、木偶（モト）は最後の方でコレットに呪いをかけることに成功。コレットはその瞬間から6週間以内に骨竜帝モトを倒さないとロストする呪いを受けた。この呪術の強度は120。ほぼ解除は不可能だろう。木偶（モト）は捨て台詞を残して消滅した。

## 呪詛

深海の蒼光 11/14 23:53~11/15 0:35

皇弟マゼンダは玉座の上にミイラ姿となって座っている。テレサたちを呼ぶよりも自分たちでホテルに移動したほうが早いので、皇弟マゼンダを布でくるんでホテルへと移動した。道中には異界となっていたゴブリンが元の姿に戻っているのが何人も見えた。ホテルに戻った一行は状況をユラ・ホワイト・テレサに説明する。テレサによるとコレットの受けた呪いの解除は骨竜帝モトを倒す以外の方法では不可能。呪いは術式ではなく異世界の異物のようで、別の世界の理によって殺された生命は現世界の理で回復することは、たとえ黄泉比良坂に行ったとしてもできない。皇弟マゼンダの回復もまた現時点では不可能。ミイラとなった皇弟マゼンダはコレットの6週間後の姿らしい。

骨竜帝モトは異世界の術式すらも知っている竜。その力を止めるには大元である骨竜帝モトを断たなければならない。アルマーヤの叡智とはそのような異世界に関わることのようなのだ。骨竜帝モトはパレスのドラゴンロードにも匹敵する力を持つ。挑むことは困難で全てを諦めるのが最も賢明な選択だと、戦力の差は絶望的だと、一行を試すようなことをテレサは告げた。

それでも、骨竜帝モトを倒せば皇弟マゼンダを救える可能性があると思ったクリムゾンアイも、少なからず犠牲を払った一行も、骨竜帝を倒すという決意をそれぞれの胸に秘めたのだった。

リザルト・報酬	深海の蒼光 11/15 0:36~0:48
<p>経験値：40000+4000（悠久の風の効果）</p> <p>FP：35</p> <p>知名度：40</p> <p>テオクリスタル：2</p> <p>経過：2週間</p> <p>参加報酬：一人あたり50000セレン（ジェイスより）</p> <p>謝礼：アダマンタイトインゴットを一人あたり20個（ゴブリン帝国より）</p> <p>手持ちのゴブ紙幣に対するレアメタル購入権</p> <p>ブルーメタルインゴット：10000ゴブ</p> <p>アダマンタイトインゴット：5000ゴブ</p> <p>オリハルコンインゴット：2000ゴブ</p> <p>ミスリルインゴット：1000ゴブ</p>	

時系列	
1日目	ホオヅキを出発。
2日目	
3日目	
4日目	
5日目	
6日目	マルスに到着。ホテルでホワイトとユラと合流。魔鉱石回収
7日目	クリムゾンアイとテレサと一緒に光の窓に入る。光の窓からゴブリン少女リサを救出。クリムゾンアイとユラと一緒に映画館に入る。
8日目	一旦映画館から撤退。異界の中での体感時間よりも実際の時間は21時間余計に進んでいた。
9日目	クリムゾンアイとホワイトと一緒に一年前の火災現場に行く。シンシアの幽霊に遭遇。再び映画館に挑む。アトムを救出。シンシアの幽霊消滅。
10日目	ホテルに完全武装のアトムが来て会話の後に旅に出た。EGに遭遇。ジェイスを救出。ホテルでジェイスから城の異界の情報を得る。クリムゾンアイとジェイスを連れて玉座の間に挑む。骨竜帝モトの人形と遭遇。人形とラストバトル。戦闘後、テレサが開いたポータルでビッグセブンに移動。 <b>冒険終了。</b>
11日目	
12日目	
13日目	キサラギ修理完了予定。
14日目	



快速艇キサラギで移動。  
嵐に巻き込まれ、火事も発生。  
予定より二日遅れた



## 固有名詞まとめ（人名以外）

トキワソー	場所	芸術家とは名ばかりの夢想家たちが集まった一角。昼間から酒を飲んで地に足のつかない能書きを垂れていた集団のいる場所だったようだ。ゴブンザもトキワソーの一員だったことからそのレベルが窺える。
寄生虫	モンスター？ 現象？	化け物に変化した者たちは便宜上『寄生虫に犯された』と称されていた。しかし、その体組織は全て『異常の無いゴブリン』のものだった。ゴブンザはラップでルクレスに完敗してしまった時に、フィオレは長年花形だったのが主役を降ろされた時に、寄生虫の被害に遭った。これは妖魔が世界に決められた性質に逆らって夢を持ち、夢破れた時に変化してしまうものだった。現在のところ根本解決をする方法はない。
ガチ勢	集団	ジェイス以外に異界攻略に挑んでいる世界有数の冒険者たち。多くの人数が皇弟マゼンダがいるという異界に入り込み、ジェイス以外はほぼ全滅したようだ。
マルス	地名	今度こそメイン舞台のはず。ゴブリン帝国首都。
ビッグセブン	場所	ホオヅキが現在停泊している海上要塞。マルスからカガチで一日、キサラギで三日の距離。
消魔石（魔鉱石）	アイテム	アンチ・マナの力を持つ石、【魔鉱石】のゴブリン流の表記。アルマーヤ海峡に鉱床があるようだ。何かで砕いて空気に触れていなかった断面を露出させると発動。魔鉱石使用中は、魔法によって働いているバフ効果、呪い、デバフ効果、マジックアイテムの能力等が全て消え、天使とホムクルスは最大HPとTPが3まで減少。通常通りに行動でき、魔鉱石の効果がなくなると元の値に戻る。効果範囲は半径30m。持続時間は5分。範囲内では全ての魔術が使用不能。外から範囲内に魔術を打ち込んでも消失する。VAPも行動できなくなる。
映画館	施設	魔法で録画した記録を上演する映画はセレンとゴブリン帝国で実用化されているが、まだ演劇の方が一般的のようだ。
アパート	施設	主に労働者階級が住む質素な集合住宅。よく怪談の舞台にもなる。
真の期待値	運命	6面ダイスを二つ振って合計が3になる現象。ファンブルではないのでネタとしての面白味もないただの失敗になる可能性の高い出目だったが、最近は一週回ってネタとして扱われるようになった。
アヅマノクニ	国家	東の最果てにある国。最高位の巫女が死者の国に大切な人を迎えに行く儀式をしてくれるという。神主？知りません。
赤黒い何か	モンスター？ 現象？	ある日突然アルマーヤの方向からマルスに降ってきたもの。中から黒い人影が出てきた。

黒い人影	モンスター？ 現象？	異界に現れる謎のモンスター。異界にうごめいている黒い影を身体から出したようだ。（木偶（モト）か？）
黒い影	モンスター？ 現象？	黒い人影から出てきたモノ。確定ではないが、光の窓や映画館で一行を襲ったものと同じ存在かもしれない。
エレベータの行き先	異界	サービスカウンター、ゲームセンター、レストラン、美術館、お土産ショップ、居住区域などもあるらしい。
城の異界	異界	街で発生した寄生虫事件とは違い、城の異界の被害者は黒い影に捕まって、自分では抑え込んでいた後悔や絶望を引きずり出されたようだ。木偶（モト）を倒したことで、異界の源となっていたゴブリンは復活した。

## ネームドNPCリスト

マゼンダ	<p>ゴブリン帝国の現在の皇帝。前皇帝クリムゾンアイの弟。現在は王城ごと異界の中で安否不明。</p> <p>悪い人物ではないが、芸術を愛し、ゴブリン帝国の臣民は生真面目すぎるから、もっと自由に生きるべきだと、娯楽や奔放な生き方を推奨し、芸術や劇団への投資をした。</p> <p>クリムゾンアイほどの叡智を持っているわけではないので、説明をされた妖魔の置かれた閉塞を理解できず（分かっていたとしても理解しなかつた？）、夢を求めることを諦めきれていなかった。兄に対しては反発していたので、兄の不在が原因で絶望する要素はないはず。</p> <p>クリムゾンアイがヴォルケイノ戦役に出陣する時に船に学徒動員兵を乗せたことや兄ともっと話をすればよかったと悔いていた。（？）骨竜帝が異界を作るときに材料にされてしまった。もはや彼を救うには骨竜帝モトを倒すしかない。</p>
クリムゾンアイ （紅眼）	<p>ゴブリン帝国前皇帝。赤竜皇帝ヴォルケイノが魔法王国マレーンで起こした戦いにゴブリン帝国を率いて参戦。冒険者が使った奥義をその場でラーニングして使ってみせたり、学徒動員されたゴブリン兵士を使った多彩な戦術により、レベルが高いはずの冒険者達や人間側の軍を苦しめた。当時、少人数で行動している時にホオヅキの冒険者によって発見され、撤退するところをマール単独による追撃を受け捕虜となった。ガチ勢の残した暗号を解読できる人物で異界攻略のキーパーソン。</p> <p>全てのゴブリンを救うためにアルマーヤへと向かい、モトよりアルマーヤの神秘を授けられてヒトや竜を越える叡智を得た。その叡智により妖魔の置かれた閉塞的な状況を理解し、ゴブリンにケダモノのような生活をせず寄生虫化もさせないように歪で厳しいゴブリン帝国を建国した。本人は既に夢を放棄しているようだ。ただし、有給休暇の取得は奨励していたらしい。</p> <p>マレーンの大規模収容施設【黒星】の地下第七層の牢から救出された彼だが、一行に自分を化け物として扱うように言い、周囲を安心させるために敢えて手枷足枷をつけたままにするように希望した。今の愛読酒はバイブル。</p> <p>映画館から救出されたアトムにゴブリンの閉塞を破れる可能性を見出して、シンシアを取り戻すための黄泉比良坂への旅を命じた。</p> <p>ヴォルケイノ戦役当時、精鋭軍団を敢えて国防のために本土に残して行ったが、これが皇弟マゼンダの悔いに繋がった。マゼンダを異界の材料とされたことに激昂した。マゼンダを救う機会があると分かり、何らかの決意をしたようだ。</p>

執事	ネームドではないが掲載。マルス中央のホテルの執事を務めるゴブリン。丁寧な物腰に底知れない有能さを誇り、クリムゾンアイに施した変装もひと目で見破った。
リサ	光の窓で救出された少女。生まれつき盲目で7歳の時に目の移植手術に失敗し、絶望して異界を発生させた。一行に救出されてからは光への執着は消えていた。慰めや励ましは彼女の心を救えず、気持ちを理解してもらえたことが嬉しかったようだ。相手の呼吸音や肌の感覚からいろいろなことを察することができ、ギャンプラーとしての才が芽生えてきた。
アトム	映画館の異界を発生させている人物。ゴブリン帝国の将軍で第一軍団長。クリムゾンアイに国防の要とまで言わせる武勇で名高い男。モンスターデータではゴブリンジェネラルのレベルは8だが、アトムは軍団長なのでさらにレベルが高いようだ。社畜状態の恋人シンシアを映画に誘ってプロポーズをしようとしていたが、シンシアは映画の前日に火災で死亡した。アトムはシンシアを映画館で待ち続け、恋人に贈るはずの指輪とネックレスと映画のチケットを失くしてしまい、異界を発生させた。シンシアの死に責任を感じ、シンシアが自分を恨んでいると思いこんでいたが、幽霊になったシンシアがまだ待っているとされ正気に戻り、異界から救出された。貝殻に収まった声でシンシアの真意を知り、黄泉比良坂へシンシアを取り戻しに出発する。アトムという名前は割とポピュラーらしい。
シンシア	故人。アトムの恋人。社畜気質だったが、たまたま休みをとって映画デートに行く前日に火事により死亡。映画館でアトムのプロポーズを受けるつもりで、メッセージ付きの手編みのマフラーを用意していた。この世への未練が残っていて、ファントムとなって現世に留まっていたが、アトムが部屋に戻ってくる前に消滅してしまった。しかし、アトムは彼女を取り戻すための旅へと出かける。
EG (エレベータ・ ガール)	城の異界のエレベータに乗ると、約1/10ほどの確率で現れるという謎の存在。幻影ではなかったが、まず人間ではなさそうだ。彼女に行きたい先を言うと言った側のイメージを解釈してそのとおりの異界に連れて行く。(異界のタイトルを言えばそこに連れて行くようだ) 結局、謎の存在のまま退場した。
モト	アルマーヤとゴブリン帝国の間の海峡に棲む、肉と鱗のないドラゴンロード。骨竜帝。パレスのドラゴンロードたちと同じくらいの時を存在し続けている。誰かがアルマーヤに渡ろうとするとモトが阻んでくるらしい。生者を弄ぶのが大好きで、クリムゾンアイにアルマーヤの叡智を渡したのも、クリムゾンアイが妖魔に課せられた閉塞による絶望に押し潰されながら足掻くのを見て愉しむためだったようだ。ビッグセブンのエーゲッツはモトの眷属になりたかったとか。水面下でエーゲッツへのオファーが発生する可能性がある。自分の玩具だったクリムゾンアイがヴォルケイノ戦役で捕縛され、手に玩具が無くなったので暇つぶしにゴブリン帝国を使って遊ぶことにしたようだ。コレットにトゥルーデスの呪いをかけた。次回GSの討伐対象内定。
ゴブンザ	トキワソーの住民だったが異界に飲み込まれずに済んだラッパー。ルクレスとのヴォーカル対決に敗れ、失意の状態で寄生虫が発動した。死骸からは異常の無いゴブリンの器官しか発見されなかった。
フィオレ	寄生虫被害の最初の犠牲者。ゴブリン帝国の劇団の当時のトップスター。その時に観客や舞台上の数名も犠牲になった。この事件がクリムゾンアイに外征を決意させたのかもしれない。寄生虫の被害に遭った当時、長年劇団の花形だったが若い才能に押されて、次の公演では主役の座から外されていた。相当落胆していただろうと推測される。事件が起きたのは主役公演の最終日だった。
アインス	天秤の騎士。GS第18話でホオヅキに宣戦布告をした。本件への関与はなかった。冤罪ほぼ確定。

<p><b>ジェイス</b></p>	<p>今回の直接の依頼者。アンチ・マナを行使するために必要となる魔鉱石を求めてゴ布林帝国に入った。ホワイトとユラを足手まとい扱いして異界攻略をしていた。異界攻略が楽しくて40ほどの異界をクリアした後、ガチ勢の集団に誘われて皇弟マゼンダのいるという異界に行き、何もない部屋に入り込み遭難した。体感時間で5年ほど異界に居たようだが、精霊術を使って仮死状態になってなんとか生き延びて救助された。</p>
<p><b>ホワイト</b></p>	<p>元ウォーロック。パティシエル教団の大幹部エリス・リトールにより殺害されたがその後復活。ゴ布林帝国に行く足がかりとしてビッグセブンに潜入しようとするも、乗り込んだ船が拿捕されてビッグセブンに囚われていたが、救出された。その後ジェイスを追ってゴ布林帝国に入った。マルス中央のホテルに宿泊中。異界から生還したものの展望ラウンジで項垂れていた。ジェイスから異界を攻略する戦いにはついていけないと言われホテルに置いてきぼりになった。世界最高の魔術師にしてはひどい目に遭いまくっている。彼女はアンチ・マナの行使はできない。記憶力が高く一度聞いたことは与太話であっても忘れない。</p>
<p><b>ユラ</b></p>	<p>深淵の帰還者。ゴ布林帝国に行く足がかりとしてビッグセブンに潜入しようとするも、乗り込んだ船が拿捕されてビッグセブンに囚われていたが、救出された。その後ジェイスを追ってゴ布林帝国に入った。マルス中央のホテルに宿泊中。異界から生還したものの展望ラウンジで項垂れていた。ジェイスから異界を攻略する戦いにはついていけないと言われホテルに置いてきぼりになった。EGを使ってジェイスを救出して彼を見返した。</p>
<p><b>ユリーカ</b></p>	<p>ウォーロック（ホワイト）の後継者ワイズマン。アンチ・マナを魔鉱石無しで発動させる稀有な人。こたつの魔女。</p>
<p><b>テレサ</b></p>	<p>食っちゃ寝聖女。GSには必ず配置されているレギュラー。（会えるとは限らない）暗黒大陸にも行ったらしい。シリアスなムーブもこなせるが、GMにすら存在を忘れられるという仕打ちを受けた悲劇の聖女。ルクレシアが光の窓を見たときには失った大切な家族幻を見たが、彼女が光の窓を見ても何もなかったという。単に心が強かったのか、それとも大切な物自体がないのか。ニブルヘイムで謎の守護者に守られていたことといい、天秤の遺跡に彼女のコピーがいたことといい、彼女という存在もかなり謎めいている。</p>
<p><b>女海賊A</b></p>	<p>快速艇キサラギをメインで動かす。飛行艇カガチを飛ばすこともできる。さらに一行がホオヅキでエリザベートと話している間にカガチに防塵処理まで施した。</p>

## ゴブリン紙幣残りまとめ

キャラ	合計	未区分	1000ゴブ札	100ゴブ札	10ゴブ札	1ゴブ札
アリーヤ	111500	11500	100			
アロンザ	61500	11500	49	9	9	10
コレット	61320		46	134	172	200
セフィ	71500		70	14	9	10
ディル	0					
ハンス	61500	61500				
ミズキ	61500	61500				
ルクレシア	111500	111500				

## 鉄壁防御・超英雄P・知名度リスト

キャラ名	鉄壁防御	超英雄P	知名度
アリーヤ	(魔装術)、ためになる話 (テンポラリ超英雄P・1)	2	279
アロンザ	ホワイトダンス	2	291
コレット	プロテクションフロムアイギス	1	149
セフィ	プロテクションフロムアイギス	2	1834
ディル	※※※※※ 《レベルキャップ参加》 ※※※※※	/	1411
ハンス	「見える」、ディメンションスリップ	4 (T)	1073
ミズキ	(危ない危ない危ない) (見なかったことにしよう)	3	1124
ルクレシア			1135

## 入手アイテム（前半戦繰越を含む）

バブルガム	使い捨てのデコイ。ガムを噛んだ人物にそっくりな動く人形（人工生命体）を作り出すことができる。ただし、半日ほどしかもたない。 <b>4枚貰った。標準取引価格：1枚あたり30000セレン</b>
輝きの鍵	外見は古びたボロっちい鍵だが、一つでどんな鍵でも三回まで開くことができる。88式グーンの起動とクリムゾンアイの牢獄の扉と鉄格子の鍵に使ったので、残りは零回。使い切った。
隠れ蓑の複製品	外見はボロ布だが、かぶることで三回まで完全に隠れられる。ただし、動いているのがばれたら見つかる。残り一回分。 <b>標準取引価格：8000セレン</b>
魔唱石	20点の魔唱石が一つ。 <b>標準取引価格：40000セレン</b> 6点の魔唱石が一つ。 <b>標準取引価格：3600セレン</b>
魔鉱石	魔鉱石がマナを吸っている間は、周囲の魔力で動いているモノは全て停止することになる。ホムンクルスや天使はひどい脱力を感じるが、魔法生物が消えるほど強い効果ではない。（魔法によって働いているバフ効果、呪い、デバフ効果、マジックアイテムの能力等が全て消え、天使、ホムンクルスは最大HPとTPが3まで減少。通常通りに行動でき、魔鉱石の効果なくなると元の値に戻る。効果範囲は半径30m。持続時間は5分。その範囲内では全ての魔術が使用不能。外部から魔術を打ち込んでも消失する。VAPも活動できない）即座に使うためにはアクセサリとして装備するかポーチに入れること。荷物に入れると準備に2ターン必要。 <b>残り37個。標準取引価格：1個あたり2000セレン</b>
レッドジュース（瓶）	映画館でルクレシアがスクリーンに引っ張り込まれ、救出された時に上半身に付着していた赤い液体を採取したもの。 <b>リアナに提出済。</b>
聖ジョージの円盾	竜殺しと言われた聖ジョージ、別名聖ゲオルギウスの用いたと言われる奇跡の盾。この盾は所有者の周囲に常に浮かんで所有者を守り続ける。回避+1のスマールシールド。回避+1、遮蔽+5の魔力が宿っている。オリハルコン製。この盾は、両手ではなく、「アクセサリ」として装備する。重さは1。アークレジェンド。特殊能力：VSドラゴン ドラゴンプレスの貫通ダメージを半減する。（切り上げ） <b>標準取引価格：80万セレン</b>

## 王城攻略情報まとめ

エントランスへの戻り方：→↓ B・B・13（絶対に暗記すること）

光の窓：←↓→ A 2 2 3 注意：窓の方は絶対に見てはいけない。

暗号が解読できればもう少しいろいろわかりそうなんだが、とりあえずエントランスに戻れば食料などは補給できることが分かったので、荷物は減らしてもう一回アタックしてみよう。

1. 現在、立ち入りが許されているのは王城内の異界のみで、他の二つの異界については立ち入りが禁止されている。したがって攻略されているのは王城内の異界だけ。多分他の二つの異界に立ち入ると二度と戻ってこれない。
2. 王城内の異界はエントランスまでは現状、通常の様子を保っており、そこまでは危険はなさそう。
3. 王城内へ入るためにはエレベーターに乗る必要がある。このエレベーターは特別性で、本来は王城内の好きなフロアに移動できるポータル式のものだった。
4. エレベーターは通常のものとは違い、二つのレバーの方向と文字盤、そして数字キーで移動する。
5. うまく王弟（マゼンダ）殿下のいる部屋のコマンドを見つけることが出来れば王弟殿下を助けられるかもしれない。
6. ただし、どのフロアに王弟殿下がいるか分からないので、一応でも探索する必要がある。
7. 攻略ガチ勢の連中は大分奥の方まで攻略できているようだが、たまにエレベーターで会うことしかできない。
8. フロアのどこかに、別のフロアのコマンドが書かれている紙が落ちているらしい。あたりが出るまで探索は続く。
9. たまにエレベーターガールが居ることがあるらしい。
10. 【多分最重要】既にガチ勢の人々が入った階層には、その階で致命的になりそうな情報が壁などに掛かっている場合がある。読めれば致命的な危険を回避できる。但し暗号で書かれているので読むことができない。これは危険を知った中級以下の冒険者に攻略不可能を悟らせて帰らせる狙いがあるようだ。

ハックする人間によって、攻略する部屋の順番が違っている場合がある。そのため、ガチ勢が既に攻略した部屋には次の部屋に進むための（エレベータに入力する）コマンドなどの情報が暗号でどこかに書かれている。

いきなり未攻略の部屋に行き当たるリスクもある。

異界攻略のためには暗号文書を読める人物が必要となる。そのため、マレーンの地下牢に囚われているクリムゾンアイを連れてくることで攻略ができそう。

異界を取り除くためにはデバイスリフレクターを無力化して異界の元になったゴブリンを殺せばいい。

具体的には異界の中核で消魔石（魔鉱石）を一つ砕いて空気に触れていなかった断面を露出させることで力を発動させれば、異界の中心になったゴブリンを一時的に取り出せる。その時に殺せばいい。

そうして、異界を一つ一つ処理していけば、やがて王城の異界の中心の皇弟マゼンダのところにとどり着ける。

彼を殺せば、他は異界ではなく散発的な寄生虫だけになるはず。

魔鉱石がマナを吸っている間は、周囲の魔力で動いているモノは全て停止することになる。ホムンクルスや天使はひどい脱力を感じるが、魔法生物が消えるほど強い効果ではない。（魔法によって働いているバフ効果、呪い、デバフ効果、マジックアイテムの能力等が全て消え、天使、ホムンクルスは最大HPとTPが3まで減少。通常通りに行動でき、魔鉱石の効果がなくなると元の値に戻る。効果範囲は半径30m。その範囲内では全ての魔術が使用不能。外部から魔術を打ち込んでも消失する。VAPも活動できない）即座に使うためにはアクセサリとして装備するかポーチに入れること。荷物に入れると準備に2ターン必要。

## エレベータコマンドリスト

↑↑↓↓←→←→BA		自爆コマンド (未)	エレベータの扉が開くと部屋全体爆発。エレベータの中にいれば爆風も来ない。
↑↑↓↓AA20		垂直落下 (未)	エレベータを出るとすぐに真下に落下。対応できなければ即死。上手く着地しても重力を反転させるモンスターに襲われる。エレベータに戻ればクリア
←↓→A223		光の窓 (クリア)	盲目な少女が一生光を得られないことに絶望してできた異界。少女は救出され、黒い影がうごめく空間となった。
→↓B・B・13		エントランス (安全)	一応の安全地帯
↓←↑↓BB		夢ならよかったのに (未)	仮眠室。大勢の人が眠っていて、その中に自分がいる。自分を起こすと記憶も人格も同じ『自分(?)』と入れ替わられる。
←←1102AA		終わらない夕暮れ (未)	一歩歩くごとに(主観的な)時間の流れが早くなる。奥まで行くと往復3000年ほどかかりロストする。
↓↓↓AA001		映画館 (クリア)	火災で愛する人を亡くした男が結婚生活できないことに絶望してできた異界。男は救出され、肉壁と炎の空間になった。
↑←1102AA		お一人様 (未)	食堂。一人で入ると特に何も起きない。二人で入ると、それぞれ別の方向を見た瞬間に片方が何処かへ連れ去られる。
???	???	サービスカウンター (未)	床や壁や天井などにびっしりとエレベータのコマンドが書かれている。

## 謎文字について

ガチ勢の暗号は『かいめつフォント』を使用していることが事後のエリザベートの発言(中央酒場2020/11/16 22:47)により分かった。フォントについてはこちらを参考↓

<https://nlab.itmedia.co.jp/nl/articles/1507/20/news021.html>